

『ラブイデオロギーは突然に』

【登場人物】

杉原美咲（すぎはらみさき）	脚本家（43）
藤井リカ（ふじいりか）	原作者（43）
櫻庭哲平（さくらばてつpei）	元テレビプロデューサー（45）
雨宮桜子（あまみやさくらこ）	ヒロイン（17）
矢吹和也（やぶきかずや）	ヒーロー（17）
柴崎小雪（しばさきこゆき）	和也の元カノ（17）
岩瀬あかり（いわせあかり）	桜子の友達（17）
佐伯啓介（さえきけいすけ）	塾講師（年齢不詳）
雨宮秀俊（あまみやひでとし）	桜子の父親（44）

【背景】

2024年、20年前のテレビドラマ『あまこい』の主題歌を題材とした新作ドラマの放送が決まった。当時『あまこい』の脚本を担当していた杉原美咲は、YouTubeチャンネル「櫻庭哲平のクリエイティブ・ジャーニー」にゲスト出演し、『あまこい』の制作秘話を語る。

【注釈】

『あまこい』主題歌は、上演時に実際に使う音楽のタイトルを利用してよい。また、その主題歌に合わせて、新作ドラマのタイトルも変更して構わない。

桜子の台詞で太字になっており、台詞がすべて（）で括られているものは、ケータイ小説におけるポエムを意味し、録音された音声が流れることを想定している。

【トリガーアラート】

本作品においては、以下の表現が含まれます。

- 性暴力を想起させる描写
- DV描写

第一話

小さな雨音。

2004年7月7日、地方都市。井川市と小川町が川を挟んで隣接しており、井川市による小川町吸収合併への動きとその反対運動が激化し、七夕祭りの日に抗争へと発展する。

そんな中、小川町の男子高校生・矢吹和也はボロボロになりながら走っている。

和也 くそつ、なんでこんなことになつたんだよ……！ なあ、桜子、もう一度お前に会えるかな。会いてえよ。

井川市議の娘・雨宮桜子もまた、人混みのなか、ぶつかりながら走っている。

桜子 ねえ、もう会えないのかな。これも私達の運命なのか。和也あ……！

二人は前も見えないまま走り続け、井川市と小川町を繋ぐ川へと辿り着く。そして橋の上で互いの名前を呟きながら、背中合わせにぶつかる。二人、振り返って目が合う。その瞬間、花火が打ち上がる音がする。

和也 桜子……？ こんなところで何してるんだ。

桜子 和也……もう全てが嫌になつたの。助けて……

和也 桜子、もう大丈夫だ。俺が守るから、一緒に逃げよう。

桜子と和也は手を取り合い、抗争の混乱を逃れて駆け落ちする。

桜子の声 連続テレビドラマ『あまこい』

二人の動きが止まり、元テレビプロデューサー・櫻庭哲平が舞台に現れる。陽気なジングルが流れ、櫻庭はタイトルコールをする。

櫻庭 （ボーズを取り）「櫻庭哲平のクリエイティブ・ジャーニー」

音楽。和也・桜子が去り、舞台が明るくなる。

櫻庭

このYouTubeチャンネルは、私、元テレビプロデューサーの櫻庭が、様々なゲストをお招きし、創作の旅路について深く掘り下げていくという番組なんですが、も、本日はこの方、ドラマ脚本家の杉原美咲さんにお越しいただきました。

そこはYouTubeチャンネルのスタジオ。

杉原美咲が座っている。

美咲

杉原美咲です。どうぞよろしくおねがいいたします。

よろしくおねがいいたします。視聴者の皆さんのために改めてご紹介いたしますと、杉原美咲さんは23歳でテレビドラマ脚本大賞を受賞し、それをきっかけに脚本家デビュー。それから20年、数々のヒット作を手掛けてきましたまさに平成ドラマのレジエンド・テレビドラマ脚本家ということなんですが、（照れくさそうに）いやいや、全然、まだまだ修行中です。

美咲 櫻庭 美咲 櫻庭 美咲 櫻庭 美咲 はい。ほんと、ご無沙汰しております。

いつ以来でしたつけ、コロナ前じゃないですか？

美咲 櫻庭 美咲 櫻庭 美咲 そう、ですね。多分『春君』以来ですか？

あー、『春を知らない君へ』、あれ本当にいいドラマでしたよね。

もうあれは、キャストさんとスタッフさんに助けられましたよ。（櫻庭の方を向き）ほんと、もう、櫻庭さんのおかげです。

櫻庭 美咲 櫻庭 美咲 櫻庭 美咲 （遮つて）いやいや、もうね、本ですよ。ドラマは結局ね、本。本がよかつたんですね。

美咲 ありがとうございます。

えっと、え、あれ2018年だから、6年前……？

美咲 櫻庭 美咲 えー、そんなに経つんですね。

櫻庭 美咲 あつという間だよね。

美咲 そうですね。

そして杉原さんもデビューから20年。

美咲 櫻庭 美咲 あつという間ですね。

そうですね。そして、20年まえのデビュー作品でケータイ小説『あまこい』のドラマ脚本を手掛けられたということなんんですけど、（前のめりになつて）いま、ちょっと話題です、よね。ドラマ『あまこい』。

そうですね。ドラマ『あまこい』の主題歌「7月7日」からインスピライアされたドラマが、今度月9で始まるということで、丁度話題になつてますよね。『7月7日』凄く流行りましたよね。

そうですね。当時、かなり。

美咲 櫻庭 美咲

主題歌、流れる。

そうそう。これこれ。

（少し不満そうに）歌は、みんな知ってるんですよね。

（あまり気に留めず）そして、これから始まる月9ドラマ、タイトルは『7月7日』、もちろんこちらの主題歌にも、「7月7日」が使われているっていうはい。（力を込めて）まあわたしはそのドラマには全然関わってないんですけども。そう、ですよね。

はい。

……あれ？ なんかトゲあります？
え、ないですよ。全然ないです。

ほんとですか。

ですです。

や、でもなんかさつきから……。

いや別にあの、あれですよ。わたしも、関わりたかったなーっていうのは。

ああ、憧れじゃないですか、月9でオリジナル脚本を手掛けるっていうのは。

やっぱあるんですね、そういうのが。

ありますよ。ありました。観てましたからね、『あすなろ白書』とか『ロンバケ』とか『ラブジエネ』とか。原点ですよ。

あ、じゃあ杉原さんはいつかは月9でオリジナル脚本を書くぞと意気込んで、この世界に入られたんですか

まあ、そうなりますかね。

なるほど。しかし、デビュー作は、ケータイ小説『あまこい』の脚本。

まあ、まあまあ、はい。

（失笑）そつかあーー。

え、ちょっとなんですか。（笑う）

いや、ぶっちゃけ、当時の杉原さんとして、ケータイ小説ってどうでした？

（困つて）えーーー。

何かイメージですけど、こう、月9とはちがう味わいというか？

やー……そうですね、こう、なんていうか、そもそもケータイ小説って、いわゆる文学とか、エンタメとかに比べると、ちょっと位置づけが特殊だったっていうか、ちょっと、なんで笑つてるんですか

いや言葉選んでるなって思つて……。

選びますよ。煽らないでくださいよ。怖いなー、もう。

櫻庭

美咲

櫻庭

美咲

櫻庭

櫻庭

いやいや、すみません、ちょっと僕、当時流行ってたケータイ小説とか、ドラマとか、あまり詳しくないんですよね。

確か当時はバラエティ担当されてたんでしたつけ？

そうなんです。がむしゃらにADやってて、全然チェックできてなくて。

そりやそうですよ。

でもテレビを辞めてから時間もできだし、「今こそ、あのとき見逃した作品にちゃんと向き合いたい」って思うようになつたんですよ。

美咲 なるほど。

美咲 ……（胸を張つて）と、いうわけで今回は！

美咲 そんな僕と、当時観られなかつた皆さんのために、「脚本家本人に作品を解説してもらう」という、超贅沢な新企画！ やつちやいます！

美咲 わたしが、……解説するつてことですもんね。自分の作品を。

美咲 そうです。

美咲 本当に怖い企画ですね。でも、ちょっと楽しみにしてきました。

美咲 ありがとうございます。それではさっそく、お願ひいたします！

美咲 はい……では、えーっと、僭越ながら、わたしのデビュー作『あまこい』について、ご紹介させていただきます。

音楽。

美咲

美咲 舞台は、とある地方都市、小川町と井川市。二つの町は天川（あまがわ）という川を挟んで隣接しているんですが、元々仲が悪いんです。合併の話が持ち上がってから、小川町では反対運動が活発になり、トラブルが絶えません。そんな中、井川市に住む少女と、小川町に住む少年、この二人の物語となります。

唐突に音声が流れる。

桜子

（雨に濡れている私達の恋。でもきっと、織姫と彦星のように、また巡り合う運命なんだ。雨が降り続ける夜、桜子はあなたを探して、星空に願いを込める。）

（困惑して）……ん？

櫻庭

櫻庭 美咲 ケータイ小説は往々にして、ヒロインのポエムで進んでいきます。このポエムはいわゆる文学的なものではなく、直接的に気持ちを吐露するけれども、内容はあんまりない、みたいなのが特徴です。

櫻庭 美咲 なるほど。

桜子

(いつか雨上がりの空にかかる天の川を渡って、桜子はあなたに会いに行く。)

櫻庭

美咲

な、なるほどー。

さて、いまのポエムからも分かるように、この作品は、織姫、彦星、七夕、天の川、願い事、雨、みたいなものがモチーフとなっているわけですが、この、ひたすらにポエムを読むヒロインがこちら、雨宮桜子、17歳。井川市議の娘で地元の名門女子校・聖華女子学院に通う清純お嬢様。

桜子が現れる。いかにもお嬢様といった風貌。

桜子 パパ、桜子は今日も学校でたくさんのこと学びました。パパに少しでも誇りに思つていただけるよう、桜子も頑張ります。

美咲 そして小川町在住、底辺高校、北星学園高校に通う訳あり不良少年、矢吹和也。

和也 和也が現れる。制服を着崩しており、いかにも不良といった風貌。

和也 いいんだよ。家に帰つても誰もいやしねえし、今夜は思いつきり騒ごうぜ。少しでもこのクソみみたいな日常を忘れるためにさ。

美咲 このふたりのボーイミーツガールです。

櫻庭 美咲
「対照的な背景の二人」

小雪が現れる。小雪は短いスカートにルーズソックスを履いており、桜子とはバックグラウンドの異なる女子高校生であることがわかる。

小雪 和也！
和也 小雪つ……。

美咲 彼女は和也の元カノ、柴崎小雪。しかし和也は小雪を冷たく突き放します。

和也 (小雪から視線をそらし) お前の気持ちの浮き沈みに付き合うのはもう限界なんだ。

和也 そんな……！

和也 僕たちにはもう未来がない。おまえも分かってるだろ？
和也 和也の馬鹿！ でもあたし、絶対あきらめないから！ (涙を拭いながら去る)

小雪

小雪

な、なるほどー。

そこに不良Aが現れる。

不良A なあ和也、少し気分転換が必要なんじやないか？ 今夜、合コンがあるんだ。お前も来ないか？

和也 合コン？ 俺が？ 悪いがそんな気分じやないんだ。

不良A おいおい、いつまでもメソメソしてもしょうがねえぞ。新しい出会いがあるかもしれないし、気分転換にもなるさ。

美咲 そうして和也は合コンに行くことになります。一方桜子も合コンの人数合わせに呼ばれます。

あかりが現れる。あかりは桜子と同じく身なりを整えている。

桜子 （困惑して）合コン……？

あかり ね、お願い。人数足りなくなっちゃって。桜子がいてくれたらすっごく助かる。

美咲 彼女の名前は岩瀬あかり。桜子の中学からの同級生。二人は親友で、桜子はあかりが困っているなら力になりたいと思っています。

桜子 （笑顔で）分かったわ。あかりがそこまで言うなら……行ってみる。

あかり ありがとう。

美咲 そして二人は合コンで、運命的な出会いをします。

桜子、和也に出会う。見つめ合う二人。恋の予感が走る。音楽。

櫻庭 合コンって運命的な出会いですかね？？

美咲 （構わず）合コンを抜け出す二人。

和也、桜子の手を引いて走り出す。笑い合う。

桜子 あー、こんなに思いつきり走ったの久しぶり！

和也 ごめんな。抜け出そうなんていって。俺、強引だったよな。

桜子 ううん。平気つ。

和也 初めて会ったのに、ずっと前から知ってるような気がするんだ。（桜子に近づく）

美咲

そしてなんと、桜子と和也は、幼いころに出会っていたことを知ります。
一年に一度、七夕祭りの夜に。

まさか、和也くんがあのときの男の子だつたなんて。

俺たち毎年会つてたんだな。

運命つて言つたら大げさかな。

大げさじやねえよ。

和也、桜子を抱き寄せる。主題歌が流れる。

桜子

（私達、織姫と彦星みたいだね。会えなかつた時間はきっと雨が降つていたんだ。）

音楽止まる。

美咲 とまあ、こういう感じで進んでいきます。

櫻庭 ……な、るほどーー。

美咲 大体雰囲気は分かつてもらえたんじゃないかなと思いますが、

櫻庭 そ、うですね、はい。

美咲 ついてこれますか？

櫻庭 大丈夫です。……まああの、ヒロインのモノローグにすんなり乗れるつていう方と乗れないつていう方が分かれたりはするかなと思いますけど、

美咲 そうですよね。

まあでもそれも、ケータイ小説の特色なんですよね。

仰る通りです。あの、まあやつぱり、こう、ケータイ小説つていうのが、

「携帯電話のプラットフォームで自分で連載をはじめて、編集者とかの手が入らない状態で書かれたもの」ですので、そういう、ストーリー作りのお作法、みたい

なのが、ない、というか、違う、というのが、特色ですよね。

なるほど。まあでも癖は強い気はしますが、全然王道のラブストーリーですよね。

そうですね。ここまでほんと、よくある王道のラブストーリーなんですが、こ

こからがケータイ小説の本領発揮といいますか、

本領発揮……？

櫻庭 （語気強く） ここから怒涛の悲劇の連続です。

えー！

ケータイ小説には「ケータイ小説7つの大罪」と呼ばれるものがありまして、
ケータイ小説7つの大罪??

青春・性暴力・妊娠・薬物・不治の病・自殺・真実の愛、この7つの大罪らしいん

美咲

櫻庭

美咲

櫻子

（私達、織姫と彦星みたいだね。会えなかつた時間はきっと雨が降つていたんだ。）

ですが、

えつぐいですね。

他にも色んな説ありまして。ちなみにこの作品は、売春、性暴力、事故死、妊娠、流産、薬物、DV、真実の愛の8つの大罪でお送りしています。

多くないですか。

(遮つて)そういうわけで、ここからは大罪を中心に説明して行ければと思います。8つの大罪その一、性暴力です。

いきなり?

和也の元カノ、小雪は和也が桜子と付き合い始めたことを知り、激しく嫉妬します。

小雪が現れる。

小雪 きいーー、何よあの女、和也の事なんか何も知らないくせに。

あんな子が和也のそばにいるなんて、許せない。(周りを見て) ねえ、あんたたち、あの桜子って女に痛い目みせてやんな。

桜子、男たちに囲まれる。

桜子 (後ずさりながら) あなたたち、だれなの、いや、やめてー。きやー。

櫻庭 美咲 (隠すようなジェスチャーで) ちょっととちょっと! え、これ地上波ですよね!?

土曜日夜8時から放映していました。

子どもも見る時間じゃないですか。

桜庭 美咲 むしろこれ、ターゲットは女子中高生ですからね。

えーー。

でも流行つてたんですよ、この頃は、そういう若年層に向けた過激な作品が。『家なき子』、『プラトニックセックス』、『池袋ウエストゲートパーク』、ティーン向けのドラマが過激だつたんですよ。

確かにあの時代、テレビ業界は全体的に無法地帯でしたもんね。

次に行きましょう、8つの大罪その二、ドラッグです。

おーーー。

桜子の父親は和也との交際に反対し、二人を別れさせます。ショックを受けた和也は……。

和也

もう何も感じたくない。何も考えたくないんだ。（薬を飲み込む） これで少しは楽になれるか。もつと苦しむだけかも知れないな。

でも、そんなことはもうどうでもいい。桜子、お前の居ない世界なんて！

いやいや、和也、そんな場合ですか、彼女が性被害にあった直後ですよね。自分を可哀そうがっている場合じゃないんじゃないですか。そして、ここでドラッグの必要あります？？

櫻庭さん、これがケータイ小説です。

これがケータイ小説かあ……。

次に行きましょう。8つの大罪その三、事故死！

え、死ぬんすか、

櫻庭

美咲 桜子と別れ、薬物中毒になつてゐる和也でしたが、それはそれとして桜子を乱暴しました犯人を捜します。そしてついに、元凶は小雪だということが判明します！

和也 お前、桜子がどれだけ苦しんでるのか分かってるのか！

小雪 知らないわよ。あたしそんなの知らない。和也が全部いけないのよ。和也の馬鹿！

小雪、走り出す。

和也 ちょ、まてよ！

和也も追いかける。

小雪 やめて、こないで！

和也 おい、だめだ、小雪、危ない！！

周りの人 ああ、車が……！

車のブレーキの音。

バーン、っと大きな音がして、舞台上の人たちは全員倒れる。
しばらくして、舞台奥から、リカが現れる。

リカ えっと、こんにちは、藤井リカです。

43歳で、独身なんですけど、子どもがひとりいます。もう高校生です。
九州に住んでいて、友だちと3人でシェアハウスしています。

わたしも含めて3人ともシングルマザーで、大人が3人、子どもが4人っていう、7人で住んでいて、大家族です。

若い時、22歳くらいの時に、ケータイ小説っていうのが流行ってて、知つてますかね。趣味で小説を書いて、そのケータイ小説のサイト、に投稿していたんですけど、「あまこい」っていうんですけど、結構ヒットして、書籍化して、ドラマ化もして、一躍時の人となりました。

へへへ。

今度ドラマあまこいの主題歌を元にした月9ドラマがはじまるんですけど、その関係者のパーティーみたいなのに、呼ばれたんです。わたしも。

それで、すっごい久しぶりに東京にいくことになつたんですけど、荷造りしながらYouTubeとかみてたら、ちょうどその月9ドラマの関連動画とか出てきて、そしたらそれに当時の「あまこい」のドラマ脚本家の杉原さんが出てて。

美咲、櫻庭起き上がり、話しながら椅子に座りにいく。
リカは荷造りをしながら、二人の会話を見ている。

いかがですか、ここまで。

怒涛の展開でびっくりします。

わかりますわかります。びっくりしますよね。わたしもびっくりました。
え、びっくりしたんですか。

びっくりしましたよ。

リカ
びっくりしたんですけど、なんかめっちゃディスってたんですよね。『あまこい』
の原作を。

ケータイ小説って、まず横書きなんですよ。そして、極端に文字数が少なくて、改行がすっごく多いです。スッカスカなんです。

おお。

状況描写と心理描写が浅すぎるし、ポエムが内容がなさすぎるし、登場人物たちが短絡的だし、極端なイベントばっかり起きるんですよ。

まあ、たしかに当時も色々批判はあつたんですけどね。とくに「文学」が好きな人たちからは受け入れられませんでした。

リカ

櫻庭
美咲

美咲

櫻庭
美咲
櫻庭
美咲

美咲 わたしが大学で学んできた文学や、脚本家になるために勉強してきた脚本術は一体なんだつたんだって思いましたよね。

リカ わかりますよ。素人なんで、単純に下手ですね。文章が。

でも問題は、（笑顔で）その作品が、売れたことだと思います！

美咲 （少しうつむいて）だって、めちゃくちゃ売れたんですよ。そういう本が。

リカ いやー、売れましたねー。

美咲 本屋さんでも棚にずらつと並んで、1位、2位、3位、がケータイ小説って年もありました。

リカ そしてバツシングされました。すごく。

美咲 おかしいだろって思いましたよね。

リカ わかりますけどね。自分より下とか劣っているとか侮っている、そういう相手が評価されてるのってムカつくじゃないですか。

美咲 宮部みゆきと村上春樹と東野圭吾を押さえて上位独占はありえんでしょ！

リカ ムカつくんだろうなーと思つて。

美咲 なんでだー……。

リカ いい気分。（うつとりとする）

わたしは別に家は居心地いい場所でもなかつたんですけど、学校に行けば友達もいたし、彼氏もいたし、本読むより楽しいこととか色々あるじゃないですか。家に本なんて一冊もなかつたし、もちろん図書館にいけばいくらでもあつたんですけど、図書館なんていくの、一部の陰キャだけじやないですか。

美咲 わたし、図書館が一番好きだつたんですけど、

わたしの読者は日頃本を読んだりしてない中高生女子たちでした。わたしと同じ

リカ

ように。

その人数が、全国全年齢層の陰キャたちより多かったです。その子らが本屋さんに押し寄せて、そして売り上げを塗り替えていったんだから、怖かつたと思います。小説をすきだつたひとたちは。

美咲 もう文学っていうものは終わつてしまつたのかな、と思いましたよね。

リカ 文学なんものはとつくなつてたんですけど、みとめられないですよね。なかなか現実つて。

リカ とはいえたのケータイ小説も、今は下火になつていて、わたしももう書いてはないんですけど。諸行無常ですね。

櫻庭 いやー、杉原さんも、色んなお気持ちを抱えながらやつておられたんですね。

リカ わたしだつて色んな気持ちにはなるんです。今観るとやばいなつてところあるんですね、まあ特に、後半は、後半は結構やばくて、ヒロインと、塾の先生との恋愛とかになるんで、娘がこんなことになつたら困るつてマジでおもうんですけど、

佐伯、登場。スーツ姿。大学生くらいにも見えるし、中年にも見えるし、年齢はよく分からぬ風貌だが、生徒にとつて先生はみんな「大人」だ。

佐伯 桜子、よく話してくれた。辛かつたな。でも君は一人じゃない。僕は君を守るためにできることを全力でやるよ。僕は君のために戦うから、君も一緒に頑張ろう。先生……。

佐伯 今日は車で送るよ。ちょっと待つてくれ。

桜子 ありがとうございます。

佐伯、ゆっくりと桜子に近づいていき、手を掴む。

櫻庭 え、あれ。

美咲 は、やば、やばい。

桜子 え？

佐伯、桜子を抱き寄せ、主題歌が流れる。

リナ

（抱き合う佐伯と桜子に慌てながら）でも当時はね！ そういうのもね、良いと思つてたんです。ていうかいっぱいあつたんですよ。先生と生徒の恋愛ものが。『高校教師』とか『魔女の条件』とか、観てたんです。かくゆうわたしも、先生を好きだつた時期とかありましたしね。まあなんにもなかつたんですけど、でも同級生で先生と付き合つてた子もいて、羨ましいなーって思つてました。

美咲

その後、ひそかに佐伯先生に想いを寄せていた岩瀬あかりは、先生の気持ちが桜子に向いていることにショックを受け、ドラッグや売春を始めるわけですが……。

客
はい
これ

客、あかりに2万円渡す。あかり、それを受けとる。

客
また頼むよ。

客、去る。

あかりわたし、どうしてこんなことになつたんだろう。最初はただ、少しでも樂になりたかっただけ。佐伯先生が桜子ばかり気にかけるのが耐えられなくて、全部が嫌になつた。だけど、薬に手を出してから、何もかもが崩れて、いつた。わたしはただの抜け殻。何も感じたくない。何も考えたくない。薬の効果が切れるたびに、現実が襲いかかってくる。それを避けるために、また薬を求める。それがわたしの今の全て。

あかりは薬を飲み込み、再び現実から逃避する。

櫻庭

リカ
結局先生と付き合うことになる桜子は、妊娠してDVされて流産するっていう結

構酷い状況になるんですけど

佐伯（桜子を殴り）何度言つたら分かるんだ！ お前は何もできないくせに…
ごめんなさい、先生…。桜子が悪かつたから、

佐伯（再び殴り）この！

桜子 やめて！ あ、ああ、お腹の子が……！

（狼狽えて）こ、ここまでする必要があります？

リカ でも酷いことがいっぱい起きるのが大切なんですよ。数々の酷い出来事は、愛を確かなものにするための試練なんです。ここまで色々な事があつたからこそ、ラストシーンが生きるんです。

美咲 ラストシーン、最後の大罪は「真実の愛」です。

音楽。花火の音。

美咲 小川町では合併反対運動が激化し、井川市との小競り合いが抗争に発展してしまった。そんな祭りの夜、桜子は傷ついた心で和也と再会します。花火をバックに、昔出会っていた、天川の橋の上で。

和也 桜子……？ こんなところで何してるんだ。

桜子 和也……もう全てが嫌になったの。助けて……

桜子、もう大丈夫だ。俺が守るから、一緒に逃げよう。

桜子と和也は手を取り合い、抗争の混乱を逃れて駆け落ちする。

桜子 （織姫と彦星、離れたままでいればよかつたのかもしれないね。出会わなければ、涙も知らずに済んだかな。ずっと雨が降っていれば、心の痛みも知らずに済んだかもしれない。でも、私達は出会ってしまった。運命に導かれ、またこの手を取り合つた。どんな未来が待っているかどうか分からなければ、和也とならどこへでも行ける。これが桜子の新しい始まり）

美咲 （大仰に）これが、ドラマあまこいの全貌となります。

リカ どんな辛いことがあっても愛し合える。酷いことばかりの世の中だけど、真実の愛だけが全てから救ってくれる。

櫻庭 これがケータイ小説なんです。

リカ それがケータイ小説なんです。

櫻庭

あの、……はじめてこういう、自分が触れていなかつた世界に触れて、結構衝撃をうけているんですけど、

美咲 そうですよね、わかります。

ちなみに杉原さんは、この原作を脚本化するにあたつて、難しかつたところとか、大変だったところとかっていうのはどのあたりになりますか？

美咲 そうですね、とにかくリアリティを感じるのが難しいというか。

リカ よくね、リアリティがないなんていわれましたが、これにリアリティを感じないひとたちは初めから読者として想定していませんのでお引き取り下さい、と思いましたし、

美咲 少女の暗い願望というか、歪んだ妄想というか、そういうもので作られているわけですよね、これは。

リカ 少女の妄想とか現実逃避とか言われましたけど、妄想、必要じやないですか。妄想こそ生きていくために必要な救済だし、いま流行りの異世界転生なんてほほほほ全部現実逃避じゃないですか。

美咲 ただわたしは大学で日本文学を学んでいましたから、元々文豪の小説とかの方が親和性が高かつたんです。

リカ （失笑）文豪の小説なんて大体おじさんの妄想じやないですか。わたしも作家って呼ばれるようになつたんでね、ちょっとは勉強しましたよ。読まなかつた本も読みました。よみましたけど

美咲 賞に選んで頂いた作品も、谷崎潤一郎、森鷗外、川端康成の影響を強く受けて書いたドラマ脚本でしたしね。

リカ 谷崎潤一郎「痴人の愛」、森鷗外「舞姫」、川端康成「雪国」、全部おじさんの妄想じやないですか？？

でも女の子はおじさんの妄想では救われないんですよ。

そして、東京を舞台にした純愛トレンディードラマでも、地方の女の子たちは救われないんですよ。

地方都市を舞台にした、身近で起こる数々の悲劇と真実の愛の物語でしか救われない女の子たちがいるんですよ。

……まあ、そう思つて書いたわけじゃないんですけど、沢山の感想のメッセージを読んで、そうなんだなっておもいました。

ケータイ小説の書籍は、そもそもは地方で爆売れしたそうです。

なのでまあ、都会の文学少女だった杉原さんは、ケータイ小説の読者層ではなかつたんだと思うんですけど、……でも大切に思つてくれる読者もいるので、そんな方にディスらないで欲しいんですよね。読者が、傷ついたやうつていうか、ドラマを楽しんで観てくれた視聴者にも失礼じやないです、普通に。

東京のパーティー会場。ざわざわしており、業界人や記者などの姿も見える。豪華な料理が用意されているほか、ウェイターがお酒の入ったグラスを持ってウロウロしている。美咲とリカが向き合う。

美咲 え、いやいや、そんな、ディスつてないですよ。

リカ いやいや、ディスつてたじやないです。わたしは大学で文学を勉強してたのに、

ケータイ小説のドラマなんかを書かされてつて。

美咲 言つてません言つてません。ケータイ小説のドラマなんて、とか言つてないですよ。

リカ でもそういうニュアンスだつたじやないです。あのYouTube。

美咲 違いますよ。あの、全然勉強してきたことや得意分野が違うのに、若い女性はケータイ小説好きで書けるでしょっていう感じで、雑にくくられたのが、しんどかつたつて話ですよ。

リカ 一緒にされたくないってことでしょ。

美咲 一緒にじゃないじゃないですか。藤井さんとわたしは。

リカ ……まあ、

美咲 共通点あります？

リカ ない、です。

美咲 ですよね。だから、女だからって雑にくくらないでほしいうつて言つただけですよ？
(不服そうに) そうですか……。

リカ そうです。……まあでもちよつと、全体的に、調子にのつて、喋つちやつたところはあると思いますので、その、嫌な思いをさせたんだつたら、すみませんでした。いえ、

リカ あの、でもほんとに、ケータイ小説を馬鹿にとかはしてなくて、ドラマ脚本書かせてもらつてよかつたなどおもつてますし、

美咲 はあ。

最初はやっぱり、極端なイベントが多いのでびっくりはしたんですけど、でもそれ

リカ

美咲

が全て「真実の愛」のための伏線だつていうことも腑におちてますし、

（嬉しそうに）その「真実の愛」を見つけることさえできれば、すべての辛い出来

事がキャンセルされて救済されるつていう！

（前のめりに）そういう信仰を描いた少女たちのバイブルなんだつていうことは、

わたしも理解して取り組んだつもりです！

ありがとうございますっ！（美咲の手を取る）

間。

美咲 ……ただ、最近おもうんですけど、

リカ はい。

美咲 見つけられないこともあるじゃないですか……。

リカ え？

美咲 それを信じた少女たちが、真実の愛を見つけられないまま大人になつちやつたらどうしたらしいんですかね。

リカ それは、

美咲 あ、（ふらついて）すみません、ちょっと、よつばらつちやかな。

リカ いや、あの、揺れでます。

美咲 え、

リカ 結構大きいかも、

美咲 ああ、

二人、その場にしやがむ。地震はおさまったようだ。

美咲 おさまりました、かね、、

リカ 多分、

会場の人たち あーー、シャンデリアが！！

リカ・美咲 え。

シャンデリアの落ちる音とともに、暗転。

『あまこい』主題歌が流れる。

舞台が、明るくなり、曲に合わせたダンス。

曲の途中、あかりがリカと、小雪が美咲と入れ替わる。

曲の一番が終わると、リカと美咲を残して退場する。

第二話

高校生の制服を着た、美咲とリカがいる。

リカはお嬢様高校といった着こなしで、美咲は短いスカートとルーズソックス。

リカ
(美咲の姿をみて) え、

美咲
(リカの姿をみて) え、どうしたんですか。

リカ
(そつちこそ) いや、

相手のリアクションをうけて、自分をみて、

リカ・美咲 え、

お互に大変びっくりして、

リカ・美咲 えーーー!?

音楽。突然ボエムが流れる。

桜子 (七夕の夜、星が輝く空を見上げるたび、織姫と彦星の物語を思い出すよ。)

困惑する二人。

リカ なにこれなにこれ。
美咲 怖い怖い怖い、

桜子 (和也と桜子も、遠い星のように違う学校で離れているけれど、こうして会える瞬間が私達の七夕だね。)

美咲 あ、でもこれは、
え
リカ 覚えがあるような。
え
リカ 確かに。
美咲 ドラマあまこいのモノローグ?
リカ 向こうから、じゃない?

美咲 そうですね。ちよつと、みてきます。

美咲、
去る

リカ
え、ちょっと、まつてまつて、

リカ、追いかける。

（でも、最近は和也の元カノの影が私達の星空を曇らせて いる。）

和也は語りでこの覺りを晦らしたい
だけど、和也はどう思うんだろう。

風に揺れる短串のようだ、これがはま

和也と桜子の笑い声。

うん、まあまあ、かな。明日、あかりとジャスコに行く約束してるから、何見るとか、計画してた。和也は？

俺もまあまあ。（川に石を投げて水切りをしながら）ていうか、授業なんて聞いて

て思つてた。

（ドキッとした表情で） 桜子も！

（少し表情が曇り）……ねえ和也。

和也ん？

和也 なんざよ。

桜子
いや、

和也（深亥をシは） 何があつたのか？ おい
（頃ノ意ニシ） 。

和也 桜子。こつちみろよ。なにがあつたんだ。

和也 実は……和也に言わなきやいけないことがあるの

和也の元カノの小雪さん？ つていたでしょ

和也 ああ、小雪がどうかしたのか

桜子

小雪さんから嫌がらせをされている。

和也

(驚いて) 小雪が!? 一体何をされたんだ。

桜子

(状況を再現しながら) 学校の近くで待ち伏せされたり、帰り道に怖いメッセージが書かれた紙を渡されたり……。

和也

なんてこつた。……小雪が本当にそんなことをしてるなんて。桜子ごめん、俺がもつと早く気づいていれば!

桜子

和也のせいじやないよ。でも、どうしたらいいか分からなくて、ずっと悩んでたの。

桜子の手をしっかりと握る和也。

和也 桜子、おまえがそんなことで苦しむのは絶対に許せない。すぐに何とかする。俺が話をつけるから、心配すんなよ。(去ろうとする)

桜子 (手を握つて引き留めようとする) でも、和也が巻き込まれるのも心配だよ。小雪さんは和也のことをまだ好きなんじやないかつて……。

和也 (桜子をじっと見つめ) もう過去のことだ。今は桜子が大切なんだ。お前を守るためなら、何でもする。

桜子 ありがとう、和也。

和也、桜子をそつと抱きしめる。

和也 一緒に乗り越えよう。桜子、お前は一人じやないから。

桜子 うん、和也がいてくれるなら、桜子、何でも乗り越えられる気がする。

和也、桜子から身体を離し、

和也 俺、今すぐ小雪にガツンと言つてくる。もうこんなことはさせない。

桜子 でも、和也……危険じやない?

和也 大丈夫だ。俺に任せとけ。何かあつたらすぐに連絡しろよ。(去る)

(和也へ手を伸ばそうとして) ああつ……。

そこに美咲が現れる。

美咲 あ、

桜子 (驚いて) 小雪さん……!

美咲 こゆきさん?

次は桜子をどうするつもり!?

どうするつもり?

どんなに嫌がらせされたって、和也のことは渡さないから。

桜子 美咲 和也?

桜子 (和也に全てを話したことで、少しだけ心が軽くなった気がしたよ。でも、その直後に小雪さんと再び遭遇するなんて、運命は本当に残酷だ。)

あ、あ、でた。

美咲

小雪さん、桜子に言いたいことがあるんだつたら、正々堂々言つたらどう。

あまこいの、主演の、上野翼さん、にしては、めちゃくちやに若い……。

そこにリカ。へとへと。

リカ まつて、はやいよ。

美咲 藤井さん。

リカ 杉原さん、

リカ あかり!?

美咲・リカ え。

桜子 小雪さん、あかりになにするつもり?

美咲 いや、

桜子 (美咲を守るようにして) あかりは関係ないんだから、手をださないで。あかり、

大丈夫?

リカ あかり……?

リカ あのひと、前に話した。和也の元カノ。小雪さん。

リカ こゆきさん……?

リカ 杉原です。

美咲 あまこいの、主演の、上野翼さん、にしては、めちゃくちやに若い……。

桜子 そうなの。

小雪さん、桜子、あなたにされたこと、和也に話した。和也、凄く怒つてた。あなたと話すつて。お願いだから、もう私達に構わないで。

うーん、

桜子 あかり、一緒に帰ろう。

(困つて) いやー……。

桜子 どうしたの?

(美咲へ近づき) と、ともだちに、なつたの、わたしたち。

桜子

リカ

桜子

美咲

和也?

桜子 え !?

リカ え、あ、うん、そう。

桜子 え !?

リカ だから、先に帰つて。

桜子 そんな、でも、

桜子 ほんとに大丈夫なの……？

桜子 うん。ほんとに大丈夫だから。先にいって。

桜子 わかった。でも、何かあつたら、すぐ連絡してね。

桜子 うん。あ、あの、今つて西暦何年だつけ？

桜子 2004年だけど。

桜子 え？

桜子 なんでもない。じゃあ。

桜子 うん。

桜子 うん。

桜子 えつと、これは、……どう思います？

リカ まあこれは、あれだよね。ドラマの世界に、転生したってことじゃない。
リカ え。あの、……もう一回言つてもらつていいですか。
リカ だから、私達、ドラマあまこいの世界に転生しちやつたみたい。

リカ えーーー。

リカ わかんないよ。わかんないけど、

リカ いやでも、そうですよね、わかんないけど、

リカ そうなんじやない、わかんないけど。

リカ わかんないけど、わたしもそんな気がします。

リカ さつきの、あまこいの主人公の桜子でしょ。

リカ 上野さん、じゃないですよね。

リカ じゃない、んじやない？ すつごい若かつたし。

リカ すつごい若かつたですね。

リカ で、たぶん、(自分が)桜子の友達の岩瀬あかりで、

リカ (自分が)柴咲小雪です。桜子の彼氏の元カノです。

リカ なんでこんなことになつちゃつたんだろう……。

美咲 なんでなんですかね……。

リカ んー……。（考え込む。突如声色が変わつて） 今日は、塾。

美咲 宿題ちゃんとやつてきたんだ。勉強がんばつてたら、佐伯先生、ほめてくれるかな。

リカ どうしたんですか!?

（我に返つて） はつ！

リカ なんか、いま、あかりの、記憶がながれてきて。

美咲 え、そんなことできるんですか？

リカ やつてみて。

美咲 はい。んー……。（考え込む。突如声色が変わつて）

あんな女に和也は渡さないわ。今日こそ、その日が来た。放課後、桜子が通るいつもの帰り道。あの薄暗い路地で、悪い男たちが彼女を待ち伏せしている。金に困っている彼らは、あたしの計画に乗つた。これで終わりよ。あんたには和也も幸せも似合わない。

リカ ちょっと、ちょっと！

美咲 （我に返つて） は！ いま小雪の記憶が。

リカ なんか今、めちゃくちゃ物騒なこといつてたんだけど。

美咲 言つ、てましたよね

リカ 言つてましたよ？

美咲 なんか、小雪は凄く和也に未練があつて、桜子を恨んでて！

リカ まあそれで、嫉妬のあまりに桜子を男たちに襲わせて、それを突き止めた和也に追いかけられて事故死するっていうのが小雪の役なわけだから、

美咲 つまり、

リカ このままいくと死にます。

美咲 えーーーー。

リカ しかもいま、今日、まさに、襲わせるみたいなこといつてたけど。

美咲 言つてましたよね。ヤバいですよね。

リカ ヤバいよね。

リカ、美咲、去る。
桜子が現れる。

リカ、美咲、桜子に追いつく。

リカ 桜子！
桜子！

あかり、と、小雪さん、

リカ 桜子 そつちは、あぶないかも！

え？

ね。

うん。あの、この先の薄暗い路地、最近ちょっと、治安がわるくて。
事件とか起きてたよね。

リカ 桜子 そうそう。

リカ 桜子 危ないって。

リカ 桜子 それを言いに、わざわざ？

うん。だから3人でかえろう。大通りのほうから。

でも、大通りから遠回りしたら6時すぎちゃう……。
なにか予定あるの？

リカ 桜子 門限が。

リカ 桜子 あー、あつた門限！

リカ 桜子 お嬢様キヤラ面倒くさいなあ！

美咲 桜子 あの、じゃあ和也に送つてもらえば。バイクで。
え。

美咲 桜子 桜子のためなら飛んでくるでしょ。わたしちょっと、ラインする。……ラインはまだないか。メールする。

美咲、和也にメールする

桜子 どうして。あなたは、和也のことまだすきなんですよ。

美咲 桜子 いやー、

小雪は、和也くんのことはあきらめるつて！

リカ 桜子 え！？

リカ 桜子 ね。

うん。そう。わたしー、和也のことはあきらめるー。

リカ 桜子 あとあやまりたいって。

リカ 桜子 え！？

リカ 桜子 ね。

うん。(早口で) 今までごめん。和也がすきで、嫉妬して、意地悪してた。でも
もうやめるから。ごめん。

桜子 (小雪さんが謝ってきたとき、ちょっとびっくりしたんだ。でも悪い人じやないの
かもって思つた。和也を好きな気持ち、桜子もよく分かるからさ。和也の優しさと
か強さに惹かれるのは、桜子も同じ。和也と一緒にいることで得た強さと優しさを、

今度は桜子が小雪さんに向ける番だよね。)

桜子 いいよ。（笑顔で） 今までのことは水に流すから。
美咲 ありがとう。

い
い
の
？

うん、あかりと桜子は友達になつたんだよね。じゃあこれからは桜子とも友達つてことで。（美咲と握手をする）

桜子、めっちゃいい子だなあ。

あ、うん、わたしも、
はい。

桜子 やつたあ。じやあ明日は、3人でいこう。

和也 小雪!? なんで桜子とあかりと一緒になんだ!

和也

(この人が) かずや。

（桜子に）なんもされてねえか！

うん。大丈夫。

小雪、全部きいたぞ！ 桜子に嫌が

よ！

よくねえだろ！

(和也をなだめて) いいの。小雪さ

いつて、約束してくれた。（嬉しそ

もだちになつたんだつ！

ともだち?
桜子と小雪が?
(小雪を見る)

うん。

(和也に近づき 手を取って) だからもう 大丈夫だよ?

（深呼吸して冷静になり）様子 手前が詰めから 倒せられは勿シ

(少し法えながさ) や、わかつた。

あの、それでね、和也くん、桜子を

あ、そうそう。この先、薄暗くて治安悪くて危ないから、バイクで大通りから送つ

て欲しいの。

いいけど、……もしかして、そのために俺を呼んだのか。桜子のために？

和也（何かを感じて）そやか。

あの、婆子、門限敵

ああ、つかった。婆子、行こう。(婆子の手を取る)

ありがとう。あの、ふたりもわざわざありがとうね。

美咲 うん

リカ
うん。

二ノノノノノノノノ。

美咲 え これいけましたよね。
リカ いけたんじゃない?
美咲 小雪死亡ルート回避できましたよね。
リカ できたんじゃない。

リカ 美咲 よかつた！

美咲 助かつたー。（ハイタツチする）

美咲 りん。 オメでとう！ ……でもさ

リカ　わたしこれから、やばくない？

なんか色々あるよな、イジント
え。

美咲 あかり？

リカ
あかり。桜子の中学からの友達の岩瀬あかり。
あかりの三三子、ニシミー、よ。

美咲 塾の先生が好きなんですよね
リカ そう。でもその塾の佐伯先生も

ああ、ああ、

リカ美咲 それにショックをうけて、薬物中毒になつて、

リカ　　壳春をはじめる。

美咲 うわー。(頭を抱える)

（頭を抱える）え 嫌すぎる この未来嫌すぎるんだけと

美咲 やっぱりこう、あれですね。あらためて、ケータイ小説ってこう、イベントがえぐいですね。

リカ あーーー……。

美咲 えっと、え、あかりがショックを受けて、偶然、薬中になつてゐる和也に出会つて、一緒に薬中になつちやう。

リカ えーー、えっと、なんで和也は薬中になるんでしたつけ。

美咲 和也は桜子の父親に、娘と関わらないでくれつて言われて別れさせられるんだよ。

リカ それで薬中になつちやう。

美咲 いちいち失恋から薬物までの距離が近いんですよ！

リカ そういう、世界観だからあ！

美咲 わかりますけど！……え、あれ、桜子のお父さんが二人を別れさせるのつて、桜子が乱暴された日ですよね。

リカ あ、そうだね。それで和也が送つていつて、別れさせられるから、、

美咲 つまり、

リカ 今日だわ。

リカ、美咲、慌てて去る。

桜子の家の前。豪邸というほどではないが、大きな一軒家で、庭も綺麗にととのえられてある。

和也と桜子が到着する。

和也 桜子、無事に着いたな。よかつた。

桜子 ありがとう、和也。今日は本当に助かつた。

和也、桜子を抱きしめる。

そこに桜子の父、秀俊がゆっくりと現れる。

秀俊 (二人をまじまじと見ながら) お帰り、桜子。
(驚いて) パパ？

秀俊 その男の子はどなたかなあ？

和也 あの俺、和也つていいます。桜子さんとお付き合いしています。

秀俊 そうか。和也君。今日はおくつてくれてありがとうございます。だが、桜子に近づくのはやめてくれ。不良の君との交際は認められない。

桜子

（驚いて） パパ、どうしてそんなこと言うの？

和也 お父さん！

秀发

秀俊

女子のお父さん、俺は桜子を守りたいと思つていよ

秀俊

核子
ハハ、そんなこと言わないと困るさーい！
在なんです！（和也の手を握る）

桜子のお父さん、どうか、少し時間

秀俊

和也

子に近づかないでくれ。

和也

桜
子

秀俊

和也、去る。

200

校子
和也

秀俊、桜子を強引に家に引き入れる。

美咲とリカ、現れる。

1112

三〇四
五月四日
天氣晴

そこに桜子のモノローグが聞こえてくる。

（ねえ和也、こんなに急に別れが訪れるなんて考えてもみなかつた。）

リカ
えー！

桜子 (織姫と彦星みたいに引き裂かれてしまったわたしたち。)

美咲 これは。

桜子 (短冊に書いたあの日の願いは、もう叶わないのかな。)

リカ・美咲 あーー……。

桜子 (和也と一緒に観た輝く星々が、いまはとても遠くに感じる。)

リカ まにあわなかつたー。

桜子 (星に願つても、和也との未来はもう見えない。)

美咲 まにあいませんでしたねー

リカ このままじゃ和也くんが薬中になっちゃう。

美咲 とりあえず、和也の家にいきましょう。

リカ うう……。

一人、去る。

第三話

和也の家。暗い部屋。散らかっており、まともに掃除されていないことが分かる。

和也、絶望している。

和也 もう何も感じたくない。何も考えたくないんだ。(薬を飲み込む) これで少しは楽になれるか。もつと苦しむだけかもしれないな。でも、そんなことはもうどうでもいい。桜子、お前の居ない世界なんて。

リカ、美咲、到着。チャイムを押しまくる。

リカ、美咲、おそるおそる中に入る。

和也 (顔を上げて) ……小雪とあかりじゃねーか。(ふらつきながら) どうした?

美咲 キマッてますね。

リカ おそかつたかー。おじやましまーす。

美咲 これは結構、

リカ 壮絶。

和也 汚くてわりいな。俺、片付け苦手でさあ。

リカ 和也君は、どういう生活してる感じ？

美咲、元カノである小雪の記憶がよみがえる。

美咲 和也は、両親は離婚していて、お母さんとすんでるんだけど、お母さんはいつもいなかつた。あたし（小雪）も家には居場所がなくて、この汚い部屋で和也と二人でいるときだけが、あたしがあたしでいられた時間だったの。

和也 おい、ペラペラしゃべんなよ。

リカ ちょっと待って、杉原さん！ あなた（美咲）立派な両親がいたでしょ。東京育ちでいい大学出て、シナリオ大賞とつて脚本家になつたんでしょ。

美咲 （我に返つて）は！ ……小雪の記憶が、

リカ いやいやいや。

美咲 なんか、すごい、たまらない。湧き上がる桜子への嫉妬と憎悪と殺意が、やばい。和也 おい、いくらお前でもあいつに手だしたら、殺すからな。

美咲 （再び小雪が乗り移つて）手なんか出さないよ！ あたしたち、友だちになつたんだから。

リカ 杉原さん、一旦落ちつこー。（和也から引き離す）

美咲 あー。（我に返る）

リカ とにかく、和也くんには支援が必要です。

美咲 はい。それは、そうですよね。そう思います。

リカ シンママかー、児童扶養手当とかちゃんともらつてるかなー、生活保護とつて生活立て直すのも手だと思うけど、あ、でもネグレクトの可能性は？

美咲 可能性はあると思う。

和也、うとうとする。

リカ じやあ一旦児童相談所かなー、2004年の児相とかシェルターつてどうなつて

んだろ。え、どうするのが良いと思う？

美咲 あ、いやー……？

リカ ん。 すみません、ちょっと、あんまり、そういう知識が……。

美咲

リカ

美咲

リカ

リカ あ、あ、ごめん、そうだよね。

なんか、すごいですね、慣れてらっしゃるというか

おはなしシンクルががにせ

え、
そ
う
な
の
？

あ、いや、マザーではないですね。

元?

独身です

卷之三

そうそう。

あ、そうなんですね。

今はシングルマザー3人でシェアハウスしてんんだけど

卷之三

多々 です。え、多々 な ですか。

で、まあ、みんな色々あるからさ、夫のDVで逃げてきたとか、養育費踏み倒され

てるけど子どもが小さくて働けない

(感心して) はああ

とはいえ、ドラツクに

和也くん、……寝てる？

効果が切れて眠くなっちゃつたんですね。エクスター、効果が短いから

二二三

卷之三

あー、じゃあ警察呼ぶしかないってこと？

いや、ドラツクに関しては、たぶんダルクとかナルコティクスアノニマスとかが、

なにそれ？

……おまつで、すぐ、貰ってない?

あー……。

なに、薬中だつたの？？

違いますよ トマト 抜いてたんですよ 貧困とか薬物依存とか

リカ あ、あー、あれ？ 『春君』？？

美咲 そうです。え、みてくれてました？

リカ みてたみてたーっ！

美咲 ああ、ありがとうございます。

リカ いえいえ。

まあ、それで取材とかしたんで、知識として知ってるだけで、実践的に慣れてるつてわけじゃないんですけど、なるほど。でもその団体って、2004年もある？

リカ えー、どうだろ……。

リカと美咲、携帯で検索しようとする。

リカ あー、ガラケーだわ。

美咲 ガラケーって検索とかできるんでしたつけ。

リカ えー、わかんない。これは無理そう。

美咲 こっちも難しそうです。

リカ 2004年つて調べものどうしてたつけ。

美咲 あ、タウンページ？

リカ あつたね、タウンページ！

美咲 あるかな、タウンページ……。

リカ （見渡して）ここから探すのは無理なんじゃ……？

美咲 うーん、なんか、……公衆電話、とかにありませんでしたつけ、タウンページつて。

リカ 公衆電話？ つてまだあるのかな。ケータイ普及してるのに。

美咲 いや、あ、……るはず。なんか確か公衆電話のシーンあつたはず。和也の家の近所の公園にある。

リカ あ、あ、わかつた。来る途中あつた！ ちょっと、電話してくる。なんだつけ、その会のなまえ、

リカ ダルクです。

美咲 わかつた。（去る）

残される、和也と美咲。

美咲、あたりをみわたして、和也を見る。

美咲 （小声で）ごめんね、わたし、あなたのこと、こらえ性がない短絡的な不良だと思つて書いてたよ。でもこういう環境だと、勉強もままならないだろうし、小雪も、

依存的なメンヘラだし、高校生にはしんどいよなー。

和也 (顔を上げて) ん……。

美咲 あ、ごめん、おこしちやつた?

和也 ああ、

美咲 水のみなよ。脱水症状おこすから。

和也 ああ。

美咲、水を持ってくる。

美咲 はい。
和也 ……さんきゅ。

間。

美咲 あのさ、和也が、わたしと別れて桜子と付き合ったのは、良かつたと思う。
和也 なんだよ急に。

美咲 いやほんとにね、桜子は和也の支えになると思うし、
和也 やめろよ。もう別れたんだ。

美咲 別れるの、やめたほうがいいとおもうけど。だってそんなにボロボロになつちやつ
和也 葉物にも手出して、ほんと、馬鹿じやないの。馬鹿。

美咲 お前喧嘩売つてんのかよ。

和也 (必死に) 幸せになつて欲しいの! 和也に。こんなとこ見たくないんだよ、もー。
美咲 中年になると子どもが酷い目にあつてるやつとか無理なんだよー。

和也 中年?

美咲 いや、ごめん、なんでもない。ちょっと今色々混ざつて、情緒が……、いやでも
和也 とにかくね、ほんとさ、やめなよ。葉物は。今日衝動的にやつちやつただけなら、
和也 すぐやめられるよ。

(目をそらして) ……関係ねえだろ。

和也 和也だって本当はわかってるでしょ。このままじやダメだつて。

和也 おまえさ、なんでそんなに俺にかまうわけ。

美咲 それはまあ、

和也 俺はもうお前の彼氏じやないんだぜ。

美咲 まあそうだね。

和也 それに俺は、もうお前になにもしてやれねえよ。

美咲 うん。なにもしなくていい。……でも和也はやさしいから、小雪になにかしてあげ
和也 たいとおもつたし、でもそれも、つかれちやつたんだよね。ごめんね。
和也 わかつてたんだな。ああ、俺は、お前から逃げたんだ。

美咲

あの……いや、正しいと思う。わたしの問題は、わたしがもつと、色んな人の力を借りて解決するべきだとおもうし、高校生の和也がひとりで背負い込むようなことをじやないんだよ。だから和也は和也の問題を解決しようとしてよ。色んな人の手を借りて。わたしも、手伝うから。

(ぐっときて) ……小雪？ なんか、……変わったな。

和也 そう、かも、ね？

大人になつたつていうか。

うん。……大人なんだよ。実は。だいぶ。

そつか。(笑つて) 僕、お前の事誤解してたかもしんねえ。

誤解？

桜子と付き合つてのなんか知つたら、逆上してどうなるかわからんねえって思つてた。

あー、

ごめんな。馬鹿だよな、俺。何も分かつてなかつた。

そんなことないんじやない？ むしろよくわかつてるとと思うよ。

(悔しそうに) ……そんなことねえよ。

実際のところ、桜子への嫉妬心はいまもすごく、湧き上がつてはきいでいるし、

小雪……!? お前、やつぱりまだ俺の事、(遮つて) でも！ 二人には幸せになつて欲しいから、より戻せばいいって思つて

る。桜子のお父さんだつて、桜子を心配してるのはなんだから、和也がちゃんと安心できる男になればいいんだよ。だから、そのためにもさ、薬物はほんとにやめよう。

(前のめりに) ……お前の言う通りだよな。

(驚いて) え？

俺もつと、ちゃんとするよ。これも(クスリを手にとつて)、やめる！

本当!?

逃げてばっかじやだめだよな。

うん。

(小雪をしつかり見て) やり直せないか、俺たち！

(呆気にとられて) は？？

今のお前となら、やつていけると思う！

いや、あの、え、桜子は？？

言つただろ。桜子とは別れたつて。

いやでも、好きなんでしょ。運命を感じたんじゃないの？？

わかつたんだ。俺は、お前を支えきれなかつたこと、後悔してた。その罪悪感から目をそらしたくて、桜子に逃げたんだ。

美咲

和也

美咲

和也

あ、いやいや、いいよ。それはそれで健全だから。逃げるとかつていうか、俺はもう逃げない

逃げなよ。逃げていいよ。

(近づいて) 小雪……！

和也、美咲を抱き寄せる

美咲 わーーー、まつてまつて、だめ、ストップ。

小雪、和也から逃げる。

美咲 ストップ、ステイ！ 同意なく人の身体に接触してはいけません。

和也 俺はお前から逃げない。だからお前も、俺から逃げるなよ！

美咲 (後ずさり) どういうこと？ てか何この状況？？

和也 (美咲に近づいて) 小雪はもう、俺の事嫌いか？？

美咲 いやー、(考えて、おさえていた何かを感じ) あー、好き。好きですね。すごく、

はい。

和也 じゃあ。(近づく)

美咲 (急いで逃げて) でもね、でもだめだよ！ これは絶対だめ。43歳だから！ 高校生は、ぜつたいだめ！

和也 は？

美咲 わたし無理なんだよ！ 異世界転生でおじさんが少年に転生して少女と恋愛するやつとか、あーゆーのすごく無理なの。嫌なの！

和也 何言つてんだよ！

美咲 なんでだよ！ (絞り出すように) 桜子と友達だから。桜子と幸せになつて欲しい。

和也 うん。

和也 美咲 ……でも、でも俺、

和也、美咲に壁ドン。

和也 やつぱりお前の事。

(耐えきれず) 和也、

キスの予感。

そこにリカ。

リカ (元気よく) ただいまー。(絶句して) ……え。

美咲・和也 あ。

リカ ちょっととちょっととちょっとと!

美咲、和也から離れる。

リカ え、なにやつてんの。

和也 いいとこだつたのに。

リカ いやいやいや、(美咲に) はあ?

リカ いや、ちがうんですよ。

リカ (和也は) 高校生だから。(自分が) 高校生に見えてるからってやつていいことと悪いことがあるでしょ。

美咲 仰る通りです。

リカ ……どこまでやつたの。

美咲 なにもしてない。未遂。

リカ ほんと?

和也 ほんとだよ。

美咲 あの、わたしも一応がんばって抗ったんだけど、ちょっと、理性が、

リカ 馬鹿あ!

和也 おい、小雪を責めんなよ。悪いのは俺だよ。

リカ ……だとしても、悪いのは小雪だよ。

美咲 そうだね。

和也 大人だから。

美咲 大人だからね。

和也 は?

リカ とにかく、緊急対応できるって。

美咲 ほんと? いけばいいってことですか

和也 うん。和也、クスリ、やめるんだよね。

美咲 ああ、やめる。

和也 やめることを手伝ってくれるところがあるから、一緒にいこう。

和也

……警察ってこと？

リカ

警察でも病院でもないよ。

美咲

薬物中毒のひとたちを助けてくれる団体があるの。あのさ、問題を全部解決してくれるような人たちはいないかも知れないけど、一緒に解決しようとしてくれる人は、案外いるからさ。私達は頼つたり助けてもらつたりすることを覚えていたらいいと思う。わたしもそうするから。和也もそうして。

和也

……小雪。わかった。（美咲に近づいて）

リカ

（二人を引き離し）おー、よしよし、じゃあいこう、準備して。

おののの、準備をはじめると、リカに電話がある。リカ、表示をみて

リカ
美咲
リカ
え、

今日塾だつたんだ。

あー、それは、あかりが好きな塾講師のいる塾？ ですよね

うん。最終的に桜子と付き合つて妊娠させてDVする塾講師のいる、塾。

さすがに最悪すぎませんか。

リカ
美咲
リカ
え。

そもそもさ、高校生に手をだすなって、言つてくる！

リカ
美咲
リカ
おお。

大人の対応してくる。そつち、まかせた。

美咲
リカ
うん。頑張つて。

リカ、電話に出る。

リカ

あの、もしもし、すみません、ちょっと、あの、わすれてて、あ、でもいきます。すみません。何時になるかは、なるべく早く、いくので、はい。はい、すみません。ちょっと、遅くなるかもしないんですけど、

第四話

舞台変わつてそこは塾。
塾講師の佐伯がいる。

佐伯 リカ さすがに遅いよー。

(にこにこして) すみません。

もう授業終わつたよ。

すみません。

ていうか、帰りのバスもうないんじやない?

え、あ、あーーー、

もー、じやあちよつと待つてて。保護者の方に連絡して、車で送る許可を貰うから。
(ぎよつとして) えつ、

(冷静に) 夜道を歩かせるわけにいかないでしょ。

(納得して) あー、すみません。

今日は特別だからね。

ありがとうございます。

佐伯の車の中。

佐伯 リカ なにしてたの、今日。

佐伯 リカ あー、ちよつと、予期せぬトラブルが色々ありますで、
佐伯 リカ へえ、まあ色々あるよな、高校生は。

佐伯 リカ はい。

佐伯 リカ 勉強も大事だけどさ、

佐伯 リカ はい。

佐伯 リカ それだけじゃないしね、人生は。

佐伯 リカ まあ。

佐伯 リカ あ、ちよつと、遠回りしていい?

佐伯 リカ はい。……(不審に思つて) え、あの、

佐伯 リカ ちよつとだけだから。

佐伯 リカ どこにいくんですか!

佐伯 リカ 内緒。

佐伯 リカ え。

佐伯 リカ ……着いた。

佐伯 リカ (困惑して) え、もう?

佐伯 リカ 外出てみて。

リカ、外に出る。

リカ (感動して) うわー、景色があー!

いいでしょ。ここ、俺のお気に入り。はい。（ジュースか何か渡す）え、ありがとうございます。

息抜きも大事だからさ。

佐伯 はい
リカ に。
佐伯 あかりが頑張ってるのは、俺もよくわかつてたまには息抜きもするよう

に。

リカ よし。えらいえらい。

佐伯 はい。

佐伯、リカの頭をポンポンする。

佐伯 それ飲んだらいこうか。

リカ いやあの、

佐伯 え？

リカ いや、嫌では全然ないんですけど、むしろ全然すごく、よかつたんですけど、

佐伯 じゃあよかつた。

リカ （遮つて）いや、ダメですよ！

佐伯 え、なんで？

リカ すきになつちやうから！

佐伯 え？？

リカ 頭ポンポンとかは、

佐伯 ごめん、いやだつた？？

リカ いや、嫌では全然ないんですけど、むしろ全然すごく、よかつたんですけど、

佐伯 じゃあよかつた。

リカ え、なんで？

佐伯 いやあの、え、

リカ 高校生は、まだ子どもなんだから、大人は子どもを、守つてよ！

佐伯 あ、うん、ごめん。あかりはちょっとみんなより大人っぽくてしつかりしてるから、

ついそういう配慮が足らなくなつちやつたのかもしれないんだけど、

……つだから、そういうのよ。そういうところよ。

ええ？

リカ みんなより、大人っぽいとかやめて。大人に大人扱いされると嬉しいから、喜んじ
佐伯 はい
リカ に。
佐伯 あかりが頑張ってるのは、俺もよくわかつてたまには息抜きもするよう

に。

やうんだよー、子どもなんだからさー、

あ、ああ、うん。

先生なんだから、

あの、もしかしてなんだけど、

な
に
?

卷之二

え、轟う？

いや、違くはない、

俺を好きってこと?

それは……（ためらいながらも）そう、です。

嬉しいよ。

喜はないで！

卷之三

三三高生に告白され、喜んでいた
迷惑、なほさんやなー。

迷惑なんですよ!!

なんで！？

女子高生上

るからですよ。そういう要因を仕事現場に持ち込まれるだけで迷惑じゃないですか

加
。

(感心して) あかりはそんな風に考えてたのかあ、

先生もそんな風に考へてください

いふが、のを打てて裏角をくわへて、仕事の机を裏角にさへて置くといふ思ふ。

あり、もし

元?

（駆け回って）嬉しいーーー。

あかり！

嬉しいと思つちやダメなのに、すごい嬉しいーー。やばいーー。

あの、ありがとうな。俺の心

こと
眞剣に考えてみるよ

いわ
たから
真剣に考へがいで、くがい
おもしろい先生が真剣に考へていい。

あはり！ そんは風二自由自在だ。いやござだ。

や、卑下とかじやなんですよ。

佐伯

リカ

佐伯

第五話

真剣に考えなくていいとか、遊びでいいとか、言うなよ。

そんなこと言つてないんですよ。

わかつた！ お前の気持ち受け止める。……あかり、付き合おう。

あーーーー、すきーーー。

あかり。

でも殺したいーーー。

え？

娘の塾にこんな先生いたら、殺したすぎる……、絶対殺す。

俺だって、生徒と付き合うのが世間的にだめだつてことは分かってるよ。でも大事なのは世間じやない。1番大事なのはお互いの気持ちだろ。

違います。一番大事なのは、子どもの安全です。

そ、それは、そうかもしれないけど。だけど。でも俺たちの気持ちだつて、大事だろ。お互いに思い合つてるのに。

思い合つて、ないです。

わたしと先生は全然対等じやないから気持ちの同意が成立しません。

(困惑して) ……気持ちの同意？

(近づいてこないよう手で制止しながら) 先生は、わたしの気持ちを尊重して受け止めて受け入れるように見せながら、子どもの未熟さや保護の必要性を無視してる。それは先生がやつちやいけないことなんです。だつて先生は色々信頼されて先生をやつてるんだから。生徒とか保護者とか塾とかに信頼されて先生なんだから、それでお金貰つてるんだから、生徒と付き合うなんて信頼の濫用ですよ。

……。(何も言えない)

あかりちゃん、先生のこと好きなんですよ。凄く。だからちゃんと好きでいさせてください。尊敬できる大人でいてください。子どもを性的対象にしないでください。付き合つて、妊娠させたり、殴つて流産させたりしないでください。そもそも避妊してください。

いや、え、……誰の話？

先生の話ですう！

……ていうね、ていう感じだつた。

佐伯、居なくなつていてる。
美咲がいる。

それは次の日、土曜日の午後。ジャスコのフードコートになつてゐる。

おおおお、おつかれさま——。

なんとか耐え抜いたし、言つてやつた。大人の対応した。

リカ　なんとか耐え抜いたし、言つてやつた。大人の対応、した。
美咲　えらい！
リカ　そつちは？

和也も、サポート受けつつ、なんとか更生プログラムを受けることになりました。

読くかどうかは分からぬけれど、

いや、こういうのはまず支援に繋がることが大事だから。

そうですね、確かに

はつ！

よかつた！

これで一旦目的は達成ですかね。

目録

回避、
できたかな？

じやないですか？ あかりに薬を渡す予定の和也は更生プログラムをうけて薬物

依存から抜け出そうとしてるし

婆子とハハ感じになる予定の先生にはガツンとハつてやつたど。

いってやつた。

いけたんじやないですか。

(ジユースで) 乞不(ま)よう。

乾杯しよー。

力
乾杯！

ふたり、ジュースを飲む。

リカ
あー、ビール飲みたい。

美咲 ビール、飲みたいですね。

リカ
え
ヒル派?

してゐるナゾ、ギリル派、です。

リカ

美咲

（立ち上がり）

わかる……。めちゃくちや分かる。
話してるとどんどん飲みたくなっちゃいますね。
(立ち上がり) ろうとして) もう飲んじゃう?
(リカを止めて) 止めですよ。

リカ

美咲

（リカを止めて）

この時代は大丈夫じゃなかつた?
どの時代も高校生が制服きてフードコートでお酒飲んで大丈夫な世界線はないと
おもいますけどね?

リカ

美咲

（リカを止めて）

えー、あー、戻りたい。
あ、そうそう、どうやつたら元に戻れるかつてことなんですけど!
うん。え、これ戻れるの?

リカ

美咲

（リカを止めて）

わっかんないですけど。でも結構、ありますよね、物語の中に入っちゃう話つて。
あるね。

リカ

美咲

（リカを止めて）

で、戻つてくるじゃないですか。
戻つてくるよね。

リカ

美咲

（リカを止めて）

よくあるのは、物語を完結させたら戻れる、っていうやつじゃないかな。
あー、あ、そうかも。「ナルニア国物語」とか、そうだよね。

リカ

美咲

（リカを止めて）

そうですそうです。「ハリー・ポッターと秘密の部屋」とかもそうなんです。
たしかに。え、じゃあさ、「あまこい」の物語を完結させれば元に戻れるつてこと?
可能性は、あるとおもいます。

リカ

美咲

（リカを止めて）

「あまこい」の物語の完結つて、
桜子と和也がくつつくことじやないですかね。
そうだよねー。

リカ

美咲

（リカを止めて）

そこに桜子。

桜子

（溜息）

……ごめんね、遅れて。
ううん。大丈夫。

リカ

美咲

（リカを止めて）

うん。全然、
え?
うまくいってる?

リカ

桜子

（リカを止めて）

……そのことなんだけど、実は桜子ね、和也と別れたんだ。
(大げさに) え、そうなのー?
(大げさに) なんでなんでー?

リカ

美咲

（リカを止めて）

桜子

桜子 パパが和也に、「君は不良だから別れろお！」って。
リカ えーひつどい！

桜子 そんなのつてないよー！
リカ パパのいうことなんかきくことないんじやない？
桜子 そうだよー。ふたりは運命の恋なんだからあ！
リカ でも！

桜子 桜子、わたしたち、応援するよ。

リカ そうだよ。ふたりには、しあわせになつてほしいっ！

桜子 ふたりとも、ありがとう。（一人のもとへ駆け寄る）

リカ ううん。わたしたち、ともだちでしょ。（桜子の手を取る）

桜子 そうだよ！

桜子 うん。（一人から離れて、表情が暗くなる）……でもね、パパが言うなら、しかたがないのかなつて。

リカ・美咲 え？

桜子 パパにはね、桜子にとつて何が大切で何が大切じゃないか分かるんだつて。でも桜子は馬鹿だからわからないんだつて……。

リカ （ちょっと引いて）えー、それは、パパが言つたの。桜子は馬鹿だつて？

リカ うん。だから桜子の彼氏はパパがみつけてくるんだつて。

リカ それは、よくないよ。パパよくない！

美咲 うん。娘にバカとかいう父親だめだよ。

桜子 でも！

リカ 桜子、飲み物かつておいでよ。

リカ 桜子 え？

リカ パパのせいで和也のことあきらめることないよ。どうやつたら、和也とうまくいく

美咲 か、作戦会議しよう。

桜子 わたしたちも協力するから！

リカ ありがとう。（笑顔が戻る）

桜子、去る。

リカ え、パパ完全にモラハラじゃない？

美咲 そうですよね。そんな設定ありましたつけ。

リカ ないよ、設定してないよ。えー、でもそうちだつたのかな。
桜子 え？

リカ 考えてみたらさ、桜子、父親に敬語使うし、門限早いし、父親の言うこと何でも聞くじやん。モラハラされてるからだとしたらさ、納得できない？

や、でもそんなこといつたらお嬢様キャラが全員モラハラされてるってことになりましたか？

全員モラハラされてんじゃない？

そんな。

だつてさ、お父様にお敬語使う系のお嬢様のお家つて、なんていうの、考え方が古臭いじやん。

確かに、伝統と重んじる格式高い家つていうのは前時代的な価値観が前提となつてはいるとおもいますけど、

そういう家つてなんか男が偉そうじやん。

確かに、そういう家は家父長制で、父親や長男が権威をもつて、女性や子供は従属的な立場に置かれことが多いかもしだれないですけど、

そういうさ、家でいちばん偉いって椅子に座つて子どもに敬語使わせる父親なんてさ、もう十中八九モラハラ野郎じやない？

確かに、……そうですね。

そうでしょ。

そうですね。そう思います。

モラハラかー。モラハラ手ごわいんだよなあ。シェアハウスにもいるんだよ。モラ夫から逃げて来たマザーがさ。

あの、わたしも昔彼氏にモラハラされてたんですけど、

え。

解決方法が、逃げる一択なんですよね。物理的に距離をとらないと、すぐとりこまれちゃうから。

そうだよね。

桜子も、モラパパと暮らしてた限り、和也とはうまくいかないですよね。

えー、でもだからってどうする？

桜子を保護するつていうのはどうですか。それこそシェルターとか児童相談所とか。

あ、それ調べたんだけどさ、児童シェルター、まだほほない。

えつ。

今年2004年によくできたところだつた。1件。東京に。

えー。

児相はあるみたいだけど、でも保護までは無理じゃないかなー。殴られてるならともかく、モラハラはなー、どうかなー、うーん……。

桜子が戻つてくる。

桜子 お待たせ。

美咲 おかえり。あ、ちょっと椅子もつてくる！

え。

桜子 あつちにあつたから。ちょっとまつてて。

美咲 ありがとう。

美咲、去る。

桜子

小雪さんって、いい人だよね。（リカの反応がない）あかり？

（声色が変わつて）桜子は、プールに入らない。

リカ え！？

桜子

桜子の身体にあざがあること、知つてた。体育の着替えの時、みえちゃつたんだ。

リカ ……知つてたの？

美咲、椅子をもつて戻つてくる。

リカ

桜子が隠してゐる体のあざ、きっと、お父さんからの暴力だらうつてわかつてた。でもずっと、知らないふりをしていたんだ。どうしていいかわからなかつたから。本当は、力になりたいつて思つてたのに。

美咲 ちょっと、

リカ （我に返つて）はつ！

桜子

あかり、そんな風におもつてくれてたの。だまつてごめんね。そう。桜子、パパから暴力をうけてる。

美咲・リカ え……。

桜子

パパは桜子が悪いつていうの。でも、桜子もう叩かれるのはいや。家に帰るのが怖い。本当は、和也とも別れたくない。

美咲 桜子がそう思つてゐるなら話は早い、よね。

リカ うん。桜子、わたしたち、桜子が家を出るべきだつて思つてる。家を？

桜子 パパと一緒に住んでたら、和也とは一緒にいられないでしょ。

リカ でも、桜子、いくところなんて……。

桜子 暴力をうけている子供を保護してくれるところがあつてね、児童相談所つていうんだけど、

美咲 そこにいくのはどうかなつて。

リカ 桜子が家を出るつもりなら、とりあえずそこに電話だけでもしちやおうと思うんだけど、どう？

桜子

（葛藤に苦しみながら）でも……。

美咲

和也もきっと、桜子が幸せになることを望んでる！ と、思う！

リカ

愛を貰くためにも、今こそ家を出るべきだよ！

桜子

（吹っ切れたように）わかった！ 桜子、家を出る！ 和也と一緒に幸せになるために！

リカ

じゃあ、電話するね。（携帯電話を取り出す）

桜子

うんっ！

（電話をかける）……もしもし、あの、友だちが、父親から暴力を受けているんです。はい。それで、すぐに保護してほしいんですけど、……え、あー、そうなんですね。（強く）なんとかならないですか？！（小声になり）……そうですよね。わかりました。じゃあ、また、月曜日に連絡します。はい。

美咲

なんて？

リカ

土曜日だから、対応してないって。

美咲

えー。

リカ

緊急な場合は警察に連絡しろって。

美咲

えー。

リカ

2004年って感じだね。

美咲

2004年ってそんな感じか。

桜子

桜子は、一体どうしたらいいの？

美咲

うーん、とりあえず、うちくる？

桜子・リカ

え。

第六話

小雪の家。

割と整理整頓されているが、部屋の隅には片付け切れなかつた衣類や小物が押し込まれているように見える。中央には使用感のあるソファアームchairが置いてある。

美咲

いらっしゃーい。

リカ・桜子

おじゃましまーす。

美咲

ちらかっててごめんね。

リカ

いやいや、きれいにしてるじゃん！

美咲

ほんと？ 最初がひどくてさ、だいぶ片づけたんだけど。

そなんだ。

美咲

（二人を案内して）座つて座つて。なんかしばらく誰もいないみたいだから、もう

気楽にして。あとでコンビニいこ。

美咲は話しながらクツションや、椅子を準備している。

ママは？

ママはねー、結構前に出て行つたみたい。

そなんだ。

パパは？

パパもねー、なんか最近かえつてきてないみたい。

え、そなんだ……。

うん。

あの、じゃあ小雪さん、家でひとりなの？

うん。最近はそうみたい。（一人にクツションを渡す）

へえ。

だから、とりあえず週末はここで過ごして、月曜日に児相に連絡するっていうのは

どうかな。

うん。ありがとう。

（ソファーカラ少し離れた椅子に座つて）ていうか、小雪こそ児相いったほうがいいんじやない。

まあね。

和也くん家よりネグレクトじゃない？

そうなんだよね。

和也？

いや、あの、和也くんはさ、知つてるので。桜子が暴力にあつてるつて。

（真ん中に座る）うん。俺が守るつて言つてくれたんだ。わかれちやつたけど。

和也くん……。
(呆れて) 和也は、そういうとこ、あるよね。（桜子の隣に座る）

小雪さんも言われたの？
うん、まあ。

え、それどうなん？ 和也くんどうなん？

いや、別に悪いやつじやないのよ。そういう守つてあげよう、という気持ちは本当だと思う。

でも桜子はね、そもそも和也から守つてあげたいとか言われるのはあんまり嬉しくなくて。

おおー。

だつて和也つて別に何の力もないじゃない。権力もないしお金もないし、地位も名

桜子

桜子

美咲

リカ

誉も将来性もないじゃない。桜子の方が偏差値高いし、家は裕福だし、親は権力があるわけじゃない。だから、何からどうやつて桜子を守つてくれるつもりなのかな、って思つてた。

いきなりめちゃくちゃ正論言うじやん。

美咲 全くもつてそのとおりですね。

様子 守るとか無理なんかし求め

卷之三

力
わ
か
る
わ
||
。

美咲 わたしより年少

わたしも、元旦那、妻子を守るてきなことを言うわりには育児全然できないから、

つて全然わたしの事守れてないじやんつて思つた

桜子（困惑して）え、え？

美咲 あ、ごめん、今桜子の話してたのに

つて、肩を寄せる)

三人、笑う。

ううん。なんか、わかつてくれて、うれしい。
なんかき、「守りたい」つて結局「支配したい」

支離れなくて妙だ。ここにシミンとケアをでさる。ほんはなつてほし
ほんとだよ。

ふたりともさ、なんか、え、大人みたいだね。

リカ 大人なんだ。実は結構。

でも桜子も、そう思う。支配じゃなくて、

（桜子が美咲の言葉を追うように）対等なコミュニケーションとケア。

校文

チャイムの音。遠くから秀俊の声が聞こえる。

秀俊 こんにちは。いらっしゃいますか。

桜子 (驚いて) え? パパ?

うそ、なんで

桜子、奥にいってて。

なんでわかつたんだろう。

チャイムの音。桜子、去る。

秀俊 すみませーん。

美咲 はーい。

リカ いくの?

美咲 うん。ちゃんと追い返そう。ヤバかつたら通報して。

リカ わかつた。

そこはリビング。リカ、美咲、秀俊がいる。

秀俊 すみません、うちの娘がご迷惑をおかけして。

美咲 あのー。

秀俊 桜子の父です。桜子を迎えて来ました。あなたが柴崎小雪さん。

美咲 はい。

秀俊 桜子から聞いてます。新しいお友達だつて。

リカ あの、え、なんで桜子がここにいるつてわかつたんですか?

秀俊 あかりちゃん、今日は新しいお友達に会うつていうもんだから、ちょっと、心配で。

美咲 後をつけてきたつてことですか?

秀俊 最近よくない男の子と付き合つてたりしたもんだからね。もしかしたら、私に嘘をついて、その子と会つてるんじゃないかと思つて。

美咲 桜子は、お父さんに嘘をつくような子じやありませんよ。

秀俊 そうですね。まったく、その通りです。(笑う) やあ、お恥ずかしい。まあでも今日はね、もうそろそろ門限ですので、連れて帰ろうと思ひます。連れてきてもらえますか。

(リカと顔を見合わせ) 桜子は帰りたくないんだそうです。

秀俊 桜子が、言つたんですか?

美咲 はい。

おかしいな。桜子がそんなこというわけない。私がいうのもなんですが、桜子はとつてもいい子なんです。門限だつて破つたことない。急に帰りたくないなんて言うわけがない。奥の部屋を見させてもらつていいかな。(立ち上がる)

美咲

（引き留めて）やー、ダメです、不法侵入です、警察よびますよ？

小雪ちゃん、だつげ。面白いこと言うね

秀俊

雷語

三

私が不去侵入だよ

秀发

•••○

美咲

• • • •

秀俊

ない
あかりちゃんとも面識がある
なせ遅れて帰ったじゃないんですね

秀俊

秀俊

ると思いますか。本当に？……子どもはね

もんですよ。それでもね、親が迎えにきたら、帰るんですよ。当たり前ですよ。帰りたくないって言つてるからつて、警察よぶだの、不法侵入だの、まかり通るわけがない。君も高校生なんだからそれくらいわかるだろ。桜子を呼んできてくれたまえ。そしたら上がらずに帰る。（声が大きくなり）桜子を渡さないんだつたら、部屋に入らせてもらう。

卷之三

ああ、申訳ない。悪かったね。娘の二二

親もそうでしょうけれどね。あなたも親になつたら分かりますよ。

リカ、戻ってきて、

リカ
わたしは、親になつてもあなたみたいになりません。
秀俊
あかりちゃん？

んで
すか

秀俊
リカ
え?
家でもそんな風に、一方的にしやべって決めつけて、気に入らないことがあつたら
怒鳴つて殴りつけるんですかね。
秀俊
なこか誤解してゐたみたいだら、婆子こ何か言われたのかな?

言われたらマズいことでもあるんですか

リカ

逆だよ。まったく思い当たらない。見当もつかない。（小雪に）君か？　君がそそ
のかしたのか？　ん？　なんて言つたか教えてもらえないかな。桜子は染まりや
すいんだ。だから、大事に育てて來たんだよ。それを、こんなところでそそのかさ
れて悪い色に染められたらまらない。

秀俊

れて悪い色に染められたらたまらない。

桜子、飛び出してくる。

桜子 ハハ！

桜子！

(怯えながら) 友だちを、悪く言うのはやめてください。

秀俊

悪い色つていいました。

秀俊

いると、悪い色になつてしまつて言つたんだ。

桜子

相性が悪いからだよ。小雪ちゃんと桜子は、合わ

やない

そしてそのどちらかは、お前なんだ！ わかるか、桜子。お前は染まりやすい。だ

1

秀俊

卷之三

美咲

云々相手は馬鹿狂二三づつ二二うソガニ。

秀俊

卷之三十一

おもつ

卷之三

秀俊

四
四

聞づかる二二か。」未だい、本当にほの野、まじめ。

つきあつていられない。
桜子、帰るぞ。

桜子は

など

リカ
わたし、
知つてます。女子こはなくせん店

あれは羨けですよ。愛のムチです。暴力なんかじやない。

暴力ですよ。

暴力です

秀信の參属の重利に口なしをめんに、アレアリ

はずだ。わきまえたまえ。

いや、普通にありますよ。ね。

秀俊 美咲
秀俊 はあ？

リカ まあ、権利っていうか、義務があります。児童虐待防止法によって、児童虐待を発見したものは、速やかに市町村、都道府県、または児童相談所に通告することが義務付けられています。

美咲 秀俊 警察だって！？

リカ ここは井川市の管轄外の小川町です。あなたの権力は通用しません。

秀俊 リカ 今ここで問題を起こせば、次の選挙にも響くんじゃないですか。

秀俊 この私を脅すつもりかね！ 子供の癖に生意気な。大人のような口をきくんじゃない。

リカ うるせー！ 同い年だよ！ たぶん！

美咲 秀俊 美咲
秀俊 しつ。
秀俊 ん？

リカ ……わたしたちは、問題をおこしたいわけじゃない。今日は帰りたくないという桜子を少しの間泊めてあげたいだけなんです。

秀俊 リカ どうか今日は帰つていただけませんか。

秀俊 ……いいだろう。だが、これで終わりじゃないぞ。

秀俊、去る。

リカ う、わーー、よかつた、かえつてくれて。
美咲 よかつたですね。

桜子 ありがとう、二人とも。

リカ いや、桜子もめっちゃがんばった。
美咲 ほんとほんと。ちょっと一旦休憩しよ。

桜子 （暗闇の中で見つけた光。

今、自由を手にしたんだ。

これからは、自分の人生を歩いていくよ。

小雪、あかり、あなたたちの手が、桜子を救つて、未来への道を示してくれたんだ。
そして、和也 ようやくあなたと一緒になれる。

パパの影から抜け出して 私達の未来が始まる。）

チャイムの音。

緊張が走る。

美咲 え、だれだろ。ちょっと、まつててね。

美咲、玄関へいく。

美咲の声 え、和也？
和也の声 桜子いるか？
美咲の声 いるけど。
和也の声 あがるぜ。
美咲の声 ちょっとまつて。

リビングに和也が現れる。
追いかけて美咲が来る。

和也 桜子！

桜子 （嬉しそうに） 和也！

リカ 和也君？

美咲 ちょっと、え、なに

和也 桜子からメールがあつたんだ。小雪の家にいるつて。それで俺、
和也、心配してきてくれたんだね。ありがとう。でも大丈夫だよ。小雪さんとは本
当に仲良くなつたの。

和也 そうか。

桜子 それでね和也。桜子、家を出ることにしたの。
和也 え。

桜子 もうパパの言うことなんか関係ない。だから和也、私達、これから二人で一緒にい
られるよ。もう誰にも邪魔されない。

和也 桜子、

和也、

桜子 和也、
和也 ごめん、俺、お前に言わなきやいけないことがあつて……。
桜子 なあに、どうしたの？

和也 正直に言うよ。俺、小雪とヨリが戻つたんだ。

桜子・リカ・美咲 え！？

美咲 戻つてない戻つてない！ え、戻つてないよ！

和也 え、でも、俺のこと好きだつて！

美咲 言つ……た……！ かもしれないけど、

リカ

美咲

杉原さん！？

無理だつて。

ああ。だけど、最後には受け入れてくれたつて思つてた！

和也 受け入れてない。受け入れてないよ！わたしは、桜子と和也の幸せを願つてゐるから、だから、和也と付き合うつもりはない。ほんとに！

和也 でも俺、自分の気持ちに嘘はつけねえよ。こんな気持ちのまま、桜子と付き合うなんてできない。

和也、どうして。私達、やつと一緒にいられると思ったのに……。

和也 桜子、本当にごめん。でも、今の気持ちに正直でいたいんだ。

桜子 そんな、桜子……和也の居ない世界なんて。

桜子は玄関のドアを開けて外に飛び出して行く。

和也 桜子！

桜子が出て行くと同時に大きめの地震が起ころる。

リカ え、なに、地震？

美咲 結構おつきい。

桜子 （ねえ和也、桜子にとって和也は世界の全てだったよ。

だから。

この恋が叶わないなら、それはもう世界のおわり。）

リカ ええ。

桜子 （壊れてしまえばいい 碎け散った桜子の心みたいに。

消えてしまえばいい 愛も希望も苦しみも痛みも。）

美咲 これは……。

桜子 （桜子もあなたも世界もすべて、

もう全部おわりにしよう。）

リカ なんか、ヤバいんじゃない？

美咲 うん。

美咲、リカ、飛び出していく。

和也 え、おい！（追いかける）

第七話

そこは外。世界は暗く、地面は所々ひび割れていて、いつもと違う風景に驚く。

リカ、美咲、空を見上げて、

リカ なにこれ。

美咲 世界が崩壊しかかってる？

リカ なに、なんで？

リカ 美咲 桜子がふられたから、ですかね。

リカ ええ？

リカ 美咲 二人の恋が消滅しようとしているからというか、
リカ 美咲 たしかにこの世界は、桜子と和也の恋愛のために作られた世界ではあるけど、
リカ 美咲 その恋愛が消滅しようとしていることによつて、世界が崩壊しようとしてるんじ
リカ 美咲 ゃないですか。

リカ 美咲 もし、もしさ、世界が崩壊した場合さ、わたしたち、どうなると思う。

リカ 美咲 一緒に崩壊しちゃうんじやないですかね。

リカ 美咲 えー。

リカ 美咲 とにかく桜子さがしましよう。

リカ 美咲 うん。

一人、探しに行く。

和也 お、おれも探すよ！

三人はばらばらに走り回つて探している。

美咲 桜子、桜子！

リカ ねえ桜子、どこにいったの？

和也 おい桜子！ どこだ！

三人、同じ場所に戻つてくる。

美咲 いなかつた。

リカ こつちも。

和也 もしかしたらおれと出会つたところかと思つて電話したけど、いなかつた。
和也 出会つたところつて？

（自信満々に）合コンのお店！

和也 いや、違うでしょ！

美咲 和也 え？

和也 美咲 出会つてたんでしょ、天川の橋で。

和也 あ……。

リカ そこだと思う、たぶん。

三人、ふらつく。

リカ 美咲 てかほんと、やっぱ。

リカ 美咲 早く見つけないと。

リカ 美咲 でもたどり着くまでにもう、崩壊するんじや、これ。

美咲 あーー。

車の音。佐伯が通りかかる。

佐伯 どうしたの、帰らないと危ないよ。

リカ あ、先生、いいところに、ちょっと、乗せていくつてください。

佐伯 え、え？

リカ はやく！

佐伯 う、うん、わかつた！

三人、車に乗り込む。助手席にリカ、後方座席に美咲、和也が座る。

佐伯 どのうちからいく？

リカ いや、家じやなくて、天川の橋まで。

佐伯 え？

美咲 いいから、お願ひします。桜子が、大変なんです。

佐伯 桜子が？ わかんないけど、わかつた。ちゃんとシートベルト締めてね。

出発する。

美咲 ねえ、和也。

和也 ん。

美咲 桜子と寄り戻してよ。

和也 おれは、お前が好きなんだ。

美咲 桜子のことも好きでしょ。

和也 いや……いや、お前が、

美咲 桜子には和也しかいないし、和也には桜子しかいないんだよ。

和也 でもよ……違うことも、あるじゃねえか。

美咲 え？

和也 おれだつて、さいしょ小雪と付き合つてたとき、「ぜつてえ一生おれが守る」って思つてた。でも、桜子に出会つて、「ぜつてえ一生おれが守る」って思つた。それからやつぱり小雪のことを「ぜつてえ一生おれが守りてえ」って思つたんだよ。その守りたいつてのやめなよ。何から守るの。

美咲 男なんてそんなもんだよ。

和也 男なんてそんなもんだよ。

佐伯 え？

和也 先生ちょっとどうるさいです。

佐伯 ごめんなさい……。

和也 こいつしかいねえつて思つても、そうじやないこともあるだろうつて……。

リカ まーねー、たしかに、それはそなんだよね。

和也 だろ！

リカ 藤井さん？

和也 だつて、永遠の愛を誓つて夫婦になつても、そうじやなかつたつてこともあるわけだからさ、すつごくよくあるわけだからさ。

美咲 でも、そんなこと言つたらこの世界どうなつちやうんですか。

リカ この世界？

美咲 真実の愛をみつけることすべての不幸から救われるつていう、そういう世界ですよね、この世界は。

リカ そうなんだけど、でも和也君がその状態じや無理じやない？ 和也君、もうぜつたい桜子の運命の恋人じやないじやん。

美咲 そうかもしれないけど。

和也 先生つてわけにもいかないし。

リカ え、俺が何？

美咲 なんでもないです。

和也 え、でもじやあどうするんですか。

リカ

美咲 他のルート？

なんか、恋愛だけが全てじゃない。これから楽しいことが沢山あるよ、みたいな。
それはでも、え、いいんですか？

え？

そんなこといつちゃつたらもう、この世界観全否定になりますけど。
まあでもこれ20年前のはなしだからさ。

そうですけど……。

むしろさ、杉原さんは、今まで作ってきたドラマの世界を全部肯定できる？
それは……そんなことないんですけど。

昔自分を救った物語が、いつまでも自分を救ってくれる？
それも、そんなことないですけど……。

昔好きだった漫画とか、大人になつてから読むと全然だつたりすることあるよね。
でも俺、いまだにアンパンマン好きつすよ。

（少し困つて）う、うん。だからさ、良いと思うんだよ。こういう、こてこての恋
愛モノも流行らなくたつてきたけどさ、それもいいことだと思う。
そうですか……。

だって少女向けのエンタメがさ、変わってきたってことじゃん。月9だって恋愛モノはヒットしなくなつて、デイズニーだって、男女の純愛はメインテーマじゃなくつてきてさ。それは恋愛以外の素敵で重要なことが色々あるよっていうそういう世界になつて来たつてことでしょ。

和也、うとうとして、いつの間にか寝てしまう。

でも、今まで真実の愛の物語に救われてきた女の子たちはどうするんですか。
やー、それでもさー……ほんとに救つてたのかな

え？

救つてたつもりで、むしろ呪つてたのかも。

どういうことですか？

だって、桜子が和也との恋を世界の全てだつて思つてゐるの、控えめに言つて不幸じやん。桜子の世界には恋以外にも素敵なもののが沢山あつてもいいのになさ。真実の愛だけが自分を救つてくれる、なんて呪いだよ！

（困惑して）ちょっと、え、まつてください、なんかすごい、いきなりめちゃくちや割り切つてるじゃないですか。

え？

おいていかれてるんですけど。

リカ

美咲

リカ

美咲

だからもう、真実の愛は諦めて、なんか他のルート考える方が良いと思うんだよね。

リカ 何に？

物語の展開に？ いつのまにか、わたしの方が、この物語に囚われてるっていうか。
この物語？

リカ 真実の愛をさがしてまして、

リカ 美咲 え？

リカ 婚活中なんです。
え、 そうなの。リアルで？

リカ はい。

リカ それは、べつに、いいんじゃない？

リカ いやでも、のろわれてる、ようなきがします。

リカ なんで。
わたし、いま仕事が順調なんですけど、

リカ うん。
お金も稼いでて、健康で、友だちもいて、推しもいて、毎日すごく楽しいんですけど。

リカ めっちゃいいじゃん。

リカ めっちゃいいんです。一人暮らしも、全然寂しくないし、快適なんです。お気に入りの部屋で一人で過ごすの最高なんです。誰かと住みたくないんです。

リカ 全然結婚しなくていいじゃん。

リカ 全然結婚しなくていいんです。でも結婚、したいんです。

リカ なんですよ。

リカ 呪われるからですよ。わたしも周りも。結婚しないと心配されるし幸せそうって思われないんです。幸せそうって思われないってすごく、不幸なんですよ。

リカ 結婚だけが幸せじゃないよ。

リカ 結婚だけが幸せじゃないって、結婚してから言つてみたい。

リカ 呪われてるね。

リカ そうなんです。二人はずっと幸せに暮らしましたとさ、めでたしめでたし、から抜

リカ け出せないんです。どうしても。
でもわかる。わたしも全然そうだったもん。

リカ そうなんですか？

リカ めでたしめでたしするつもりで、結婚したもん。離婚したけど。
(困惑)

リカ なるほど。

リカ それでマザーたちと暮らして思つたんだけど、男女の恋愛から家族になるって、いまいちデザインとしてよくないっていうか、完璧じゃないっていうか。なんかもつと色々あつたらしいのになつて。

美咲 恋愛して結婚して家族になるのが当たり前、って考え方、なんか、ありましたよね。
言い方が。

リカ え、そうなの？

美咲 そうです。なんていうんでしたつけそういうの。あー、

佐伯 ロマンティック・ラブイデオロギー。

和也 それです。よく知つますね。

リカ ロマンティック・ラブイデオロギー？

佐伯 恋愛して結婚するのが一番いいよねっていう。

和也 それさ、私達がつくってきたロマンティック・ラブストーリーとだいたい同じやつじゃない？

美咲 ……たしかに。え？ ジやあ、私達はロマンティック・ラブストーリーを作つて來たつもりでロマンティック・ラブイデオロギーを強化してきたってことですか。だとしたら、やっぱり呪いだよねー。

和也 もしかして、それから桜子を救わないとなんじやないですかね。

リカ もう……？

美咲 わたしたち、今までその、8つの大罪を回避？ 解決？ クリア？ しようとしてきたわけじゃないですか。

和也 8つの大罪、

リカ 美咲 売春、性暴力、事故死、妊娠、流産、薬物、DV、
リカ 残りの一個は、

美咲 真実の愛。

リカ、美咲、目を合わせる。

佐伯 （何かに気づいて）あ、……桜子？

リカ え、ほんとだ。

和也 桜子。

美咲 あれ、やばくないですか。

リカ あ、やばいやばい。危ない。

和也 桜子！

佐伯 先生急いで！

リカ わかつた！

和也 車、去る。

最終話

天川の橋。川は荒れ、空はひび割れ、地面は崩れ、星々は赤く染まっている。

桜子が現れ、欄干に登っていく。

桜子 桜子と、和也が、出会ってた、場所……。

出会わなきや、よかつたんだよね。出会わなきやこんな悲しい気持ちにならなかつたんだよね。和也、和也、和也……！ なんでなんでなんでどうして、だつてねえ運命だつて言つたじやない。

四人出てきて、遠くから桜子を見ている。

桜子は絶望した少女のようであり、そして世界を滅ぼそうとする魔王のようでもある。

桜子 運命が運命じやなかつたらもう無理だよ。和也がいない世界なんて、桜子もう無理。生きていけない。こんな世界、壊れてしまえばいい。

桜子が感じてこの悲しみも、この苦しみもこの絶望も……すべてを世界に返してやる。桜子は、もう、誰にも支配されない。誰にも傷つけられない。桜子の痛みを、この世界に知らしめる！

覚えておいて。桜子を傷つけたすべてのものたち。桜子の絶望が、世界を襲うだろう。桜子の涙が、世界を呪うだろう。この世界に、もう一度光が差すことはない。

リカ 美咲 ……なんか、桜子、闇落ちしてない？

佐伯 美咲 完全に闇落ちしてますね。

和也 佐伯 もういまにも飛び降りそうじやん、助けにいかないと。

和也、前に飛び出す。

桜子！

和也 桜子 和也。

和也 俺ー、お前のことがーー、嫌いになつたわけじやねえんだーー。

リカ 美咲 え、何
未成年の主張？？

和也 ただし、気づいちまつただけなんだー。

今一、本当に好きなのはーー、小雪だつてーー。

死ね、くそが―――！

桜子、闇の力で和也を追い返す。

世界の崩壊の速度が上がる。

世界の崩壊が激しくなってきたんだけどー

リカ
逆効果じゃん！

美咲 戻って戻って!!

和也、戻る。佐伯、いく。

桜子、闇の力で佐伯を追い返す。
世界がさらに崩壊する。

佐伯　ダメだった。
リカ　何しに行つたんですか！

桜子
もーー！ どいつもこいつも他の女の話しあがつて、何なの？？ 桜子を好きな
男はいないわけ？？ 桜子は、桜子だけをずっとずっと愛してくれる運命の恋人
が欲しいの。もう和也じゃなくていい。和也じゃなくていいから、誰でもいいから、
運命の恋人が欲しいー。（駄々をこねる子どものように暴れる）

和也 桜子……。

リカ 美咲 なんか欲望が素直になつてきましたね……。
次、わたしくー。

美咲

リカ、軽快に向かう。

桜子——！

(喜んで) あかり!

運命の恋人なんて、いませーーーん！

え
!?

男に期待するのは、やめろ——！

そんな！

やめよ。もう全然、恋愛だけが人生じゃないから。恋愛以外の幸せもあるからーー。

桜子
そんなのいや———！

リカ、押し戻される。

老子

桜子は運命の恋がしたいの。誰かに選ばれてたつた一人の誰かになりたいの。「恋愛以外の幸せがある」とか、いいの。知らない。桜子は、恋物語のヒロインになりたいの——。

分かるの？ 杉原さん、これ分かるかんじ？？

恋物語のヒロイン、なりたい

そう？？
うん。でもわたし、
いつてくる。

リカ うん^c

一緒に来て！
うん。

卷之三

美咲 桜子——！

小雪さん
ムカシ、未來かう來之。娘子モナ、こう來之。

皆え―――!?

あなたは恋物語の主人公じゃないの。SFの主人公なの。未来は結構いい感じだか

（きよとんとして）…………… そうなの？？

リカ

うん。だから大丈夫。未来は結構いい感じだから、大丈夫だよーー！
未来はいい感じなの？

桜子 そうだよ。

桜子 本当に？

桜子 本当だよ。

桜子 ……嘘よ！

世界の崩壊音。

桜子 世界はどんどん悪くなっていく。その酷い世界で、愛だけが桜子を救ってくれる

の。

リカ 桜子。

桜子 （苦悶して）……ああ、ちがうの、力が制御できない。信じたいのに信じられない。

桜子 よくなる未来を、信じられないよー。

桜子の意志に反して、世界はきらに崩壊していく。

リカ、美咲、走りだす。

崩壊していく世界のなか、石を蹴飛ばし、木々をなぎ倒し、崖を飛び越え、それでも二人は桜子のもとへ走り続ける。

リカ 桜子、信じて！ 世界は少しづつよくなっていくからーー！ 恋愛だけが救済じ

やない！ 恋愛して、結婚して、子どもを産んだ男女二人だけが主人公じやない世界に少しづつなっていくから！

美咲 桜子 色んな生き方や色んな幸せをそれぞれに探していく世界になつていくから！

もつと、具体的に言つてーー！

桜子 結婚した男女を中心に構成される家族、だけじゃない、友だち同士でシェアハウスに住んだり、同性間のパートナーシップ制度が導入されたり、多様な家族のあり方が普及してきているんだよ！

それだけー？？

桜子 もちろん一人でいたつていい！ 一人旅や一人ディズニーを楽しむ「ソロ活」とか、アイドルやアニメのキャラクターを応援する「推し活」とか、そういう生き方も広まつてます！

他にはー？？

桜子 「育児はお母さんだけの仕事だ」って考えが、普通じやなくなつていくよ！

桜子 からのーー？

美咲

職場でのセクシャルハラスメント防止対策も進んで、女性が働きやすい環境が整えられて行つてる！

桜子 もう一声——！

医学部入試では女性受験者の点数が意図的に低くされてたんだよ！ でもそれも是正されていつてる！

桜子 (少し響いた様子で) う、うーー、医学部だけーー？？

美咲 国会議員の女性比率もどんどん増えて行つてる！ もちろん全体ではすごく低いけど、2022年の参議院選挙では女性の当選者比率が過去最高になる！ 女性が政治家を目指してもいいんだよ！

二人、桜子の近くまでたどり着く。ヘロヘロになつてゐる。

美咲 ……とはいえまあ、まだまだなんだけど、ほんともうまだではあるんだけど、でもさ。

わたし、モテ期が小学校で12人に告白されたんだよね。

リカ 美咲 いきなりなんの話ですか！？

リカ でも、告白してくれなかつた太田くんがずっと大好きで、運命の人だつて思つた。そのまま引越ししてなにも言えずに終わつた。

美咲 え、だからなんのはなし？

リカ その後、中学で好きになつた伊藤くん、すげえイケメンで笑うとくしゃつとなるところが可愛くて運命の人だつて思つた。

美咲 うん。

リカ 伊藤君は、クラスで一番可愛い高野さんと付き合つた。

美咲 うん、どうした？ それが。

リカ 割愛するけど、その後出会つた運命の人の数6人、これが本当の本当に運命の出会いと思つた人と結婚し、離婚しました！！！

リカ、拍手を強要。美咲、思わず拍手。

リカ

すつごい恋愛体質だつたからさ、依存もしてたし、なんにも自分で決められなくて、でも、いまシェアハウスしてるんだけど、シングルマザー3人と子ども4人で住んでるんだけど、つまり7人で住んでるんだけど、すっげーたのしいんだよ！ めちゃくちゃ大変なんだけど、気づいたら何でも自分で決められるようになつた。自分で決断できるつていうことがうれしいんだよね。

自分で、未来を決められるつことがさー、嬉しいんだ。

ねえ桜子、桜子に恋愛の呪いをかけたのはわたしなんだ。ごめんね。でもね、本当

に、こんな形で物語をおわりにしないでほしい。

桜子、わたしも呪いにかかるてたひとりなの。だから桜子の気持ちよくわかるよ。

藤井さんの原作よんだときは、文学的な要素なしの頭恋愛お花畠なんやねんって思つてたけど。

そんなこと思つてたの……。

美咲 女性だから恋愛モノ書けるでしょ的な雑な感じでくくられてムカついたけど、でも実際、少女漫画も月9も大好きだし、恋愛モノ、全然書けた。

ドラマ『あまこい』の脚本、良かつたよ！

わたしも呪いにかかるたからなんです。そして、それを再生産してた。

今この世界にきて、桜子をみて、改めて思いました。

わたし、これからはもっと女性が色々な夢をもてる作品を書きた

（世界に向かって）純愛ものなんかかいてや
、 ジャン
、 二のノメ、

わーー！ いーしやん！！ たのしみいー！

うんつ。

結婚はしていないんだけど、数々の運命の恋は全部ハッピーエンドにはならなかつ

たんだけど、でも、それでも、わたしはわたしを幸せに出来るつて思う。

いいじやん。

…
い
い
ね

いいでしょ。

桜子だって、自分の手で桜子を幸せにできるから。

だから誰かの作ったハッピーエンドから外れても、世界を呪うことなんかないよ。

世界も自分も手放さなくていい
……ねえ、未來つてどんな感じ?

平成、おわる

ケータイで映画見れる。

へえー！

わたしにはね 桜子とねんない歳の娘がいるんだ 身長がこんなでつかいんだけと
将来は消防士になるんだー！ とか、言つててさ、

へえ――。

桜子は？ どんな未来を、想像する？

どんなことだつて、想像していいんだよ。

桜子、欄干から降りる。

（小声で）……買い食いしてみたい。

え！ いじやんい いじやん、

（美咲）見ニシレ一ヅノツクスはキニイ！

（美咲を見て）
いいじやん。

美咲 はきなよー。

あと安室ちゃんみたいに歌つて踊りたい。

リカ 安室ちゃん引退す、

美咲

リカ 桜子 S M A D ひらがな解説す、

美咲

桜子 オシャレな、

リカ 東京かー。

美咲 楽しいよ、東京。

桜子 東京のいじ力

「さうは他元の仏立で

美咲 うん。

桜子 東京いって一流企業

ビッグな政治家になりたい！

リカ えーー、なりなよー！

美咲

つからぬハサゲ、用意しておひるごはん！

でも、でもね、すてきな彼氏は、ほしいよ

美咲 わかる——！

リカ 恋愛はしたつていいんだよー！ してもいいけど、オプションだから！ すべて

じやないから！

桜子、世界に向かつて、微笑み、

その瞬間、世界は少し色を変える。

和也、佐伯、現れる。

和也 お、おー？

佐伯 あれ、崩壊が

和也 おさまった……？

桜子 （笑顔で） うん。

佐伯・和也 あー、世界の破片が！

リカ・美咲 え。

世界が爆発するような音。

暗転。

主題歌が流れる。明かりがつくと、ダンスが始まる。

（未来から来た不思議な二人のおかげで桜子は生きる勇気をもらつたよ。

未来の風が桜子の背中を押してくれたみたいに、二人の言葉が心に響いた。

東京の大学で新しい生活を始めることができたのも、二人のおかげだね

東京はなにかと素敵でおしゃれ。

いろんな考え方を持つ人たちと出会って、

桜子は自分の世界がどれだけ狭くて凝り固まっていたかを知ったんだ。

世界は広くて、果てしない。

苦しいことも悲しいこともあるけれど、

今は自分で自分の人生を思いつきり楽しんでるよ

あと、男の人は星の数ほどいて、選びたい放題です

次の同窓会が楽しみだなー。）

桜子は希望のまなざしを向け、去っていく。

リカと美咲、あかりと小雪を『あまこい』の世界に返すように、さよならをする。

元の世界。パーティー会場で、リカと美咲がしゃがみこんでいる。無傷。シャンデリアは間一髪直撃していなかつた。

リカ

戻つてますね。

リカ 助かった、のかな。

多分。

リカ ねえ、色々あるけどさ、とりあえずビール飲まない?

リカ 美咲

幕

【主な参考文献】

美嘉（2006）『恋空～切ナイ物語～』上・下、スターツ出版

メイ（2007）『赤い糸』上・下、ゴマブックス

本田透（2008）『なぜケータイ小説は売れるのか』ソフトバンク新書

中川右介（2016）『月9 10のラブストーリー』幻冬舎新書

美嘉（2016）『恋空』10年目の真実 美嘉の歩んだ道 KADOKAWA

※「ケータイ小説七つの大罪」に関して、『なぜケータイ小説は売れるのか』が参照元だが、「レイプ」を「性暴力」と言い換えている。「レイプ」という言葉がともすればキヤツチーな言葉としても扱われてしまう社会状況を鑑みて、上演においてその言葉を軽快な文脈で取り扱ってしまうことによる悪影響を避けるためである。